

市民活動に関する市民意識調査結果

平成30年11月

鹿児島市

＜目次＞

調査概要	1
Ⅰ. 市民活動に関する意識と経験の有無について	3
1. 市民活動に対する関心度	3
2. 市民活動の社会への貢献度	5
3. 市民活動経験の有無	6
Ⅱ. 市民活動の経験内容について	8
1. 市民活動の頻度	8
2. 経験したことのある市民活動の内容	10
3. 市民活動に参加したきっかけ	11
4. 市民活動を行って良かったこと	14
Ⅲ. 市民活動未経験の理由と参加意向等について	17
1. 市民活動をこれまで行ったことがない理由	17
2. 市民活動への参加意向	20
3. 市民活動に参加するための条件	22
4. 参加してみたい市民活動	25
Ⅳ. 参加したい市民活動の分野	26
1. 参加したい市民活動の分野	26
Ⅴ. これからの市民活動について	28
1. 市民活動を行いやすい環境づくりのための条件	28
2. 企業による社会貢献活動	32
Ⅵ. 市民活動と行政との関わり	33
1. 市民活動と行政のあり方について	33
Ⅶ. 自由意見	35
1. 市民活動に対する考え方について	35
2. 市民活動への行政の関わり方について	36
3. 情報提供について	36
4. 活動への参加意向	37
5. 地域での市民活動について	37
調査票	38

調査概要

[調査手法]

調査内容	市民活動に関する市民意識調査
調査区域	鹿児島市内全域
調査対象	平成30年5月1日現在、鹿児島市に居住する18歳以上の市民1,000名 (町・丁目ごとの人口比及び年齢比に基づき無作為抽出)
調査方法	郵送による送付、回収
調査期間	平成30年6月15日(金)～7月10日(月)
回収結果	送付数1,000件 回収数389件 (有効回収率 38.9%)

※各設問における性別、年齢別、職業別での比較は不明を除くものとする。

※算出されたパーセントは端数処理として四捨五入を用いているため、合計が100%にならない場合がある。

※複数回答での調査項目については合計が100%を超える場合がある。

※サンプル数(n)は有効回答実数である。(したがって区分ごとのサンプル数(n)の合計が全体サンプル数と合わない、また設問ごとでの相違が生じる場合がある。)

[基本属性]

【居住地】

カテゴリ	件数	構成比
中央地域	126	32.4%
谷山地域	67	17.2%
伊敷地域	59	15.2%
吉野地域	42	10.8%
吉田地域	16	4.1%
桜島地域	13	3.3%
喜入地域	22	5.7%
松元地域	21	5.4%
郡山地域	19	4.9%
不明	4	1.0%
回答総数	389	100.0%

【性別】

カテゴリ	件数	構成比
男性	159	40.9%
女性	226	58.1%
不明	4	1.0%
回答総数	389	100.0%

【年齢】

カテゴリ	件数	構成比
10歳代	5	1.3%
20歳代	41	10.5%
30歳代	80	20.6%
40歳代	72	18.5%
50歳代	96	24.7%
60歳代	48	12.3%
70歳以上	45	11.6%
不明	2	0.5%
回答総数	389	100.0%

【職業】

カテゴリ	件数	構成比
自営・家族従業者	31	8.0%
会社員・団体職員	145	37.3%
会社・団体役員	14	3.6%
公務員	20	5.1%
学生	13	3.3%
専業主婦(夫)	65	16.7%
無職	51	13.1%
その他	47	12.1%
不明	3	0.8%
回答総数	389	100.0%

I. 市民活動に関する意識と経験の有無について

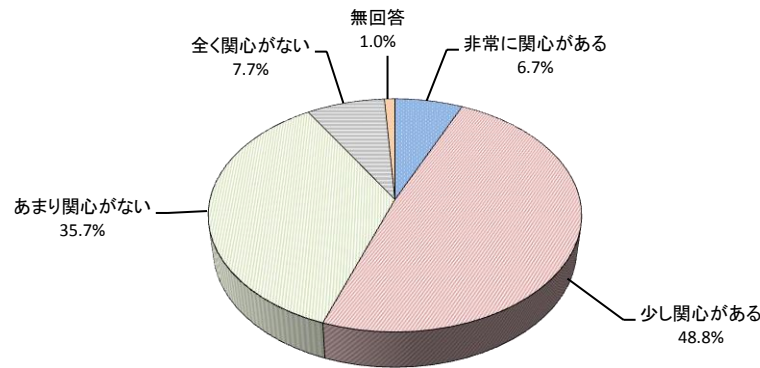
1. 市民活動に対する関心度

市民活動に対する関心度については、「非常に関心がある」が6.7%、「少し関心がある」が48.8%、「あまり関心がない」が35.7%、「全く関心がない」が7.7%となっている。

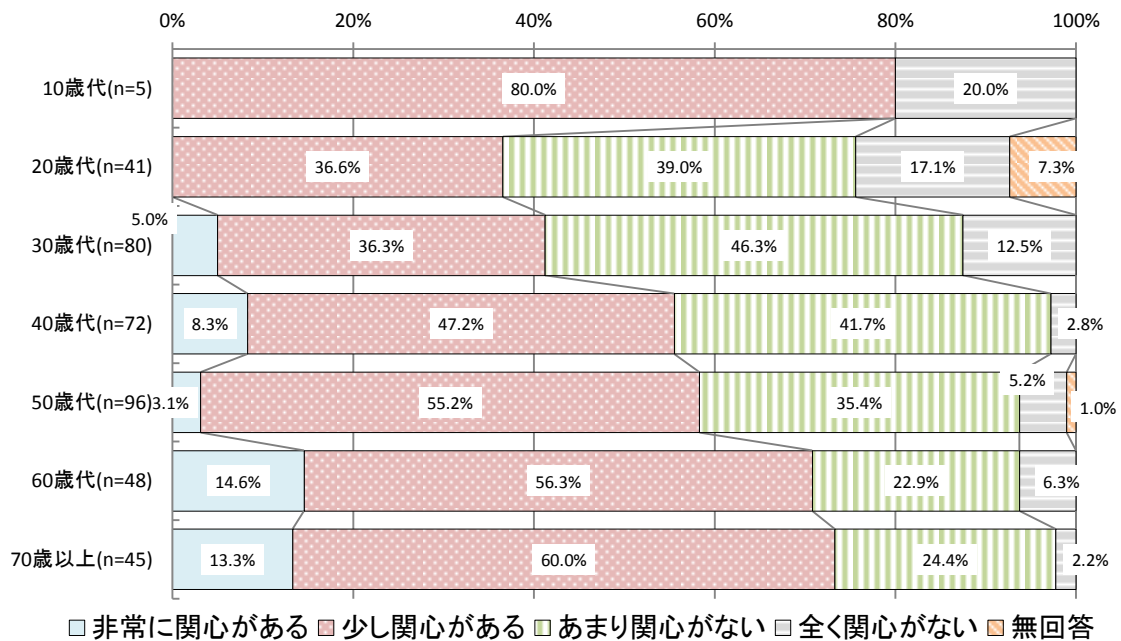
これを年齢別にみると、年齢が高くなるほど関心度が高くなっている。

また、過去3回の調査結果と比較すると、年々『関心がある』（「非常に関心がある」+「少し関心がある」）割合が低くなる傾向が見られる。

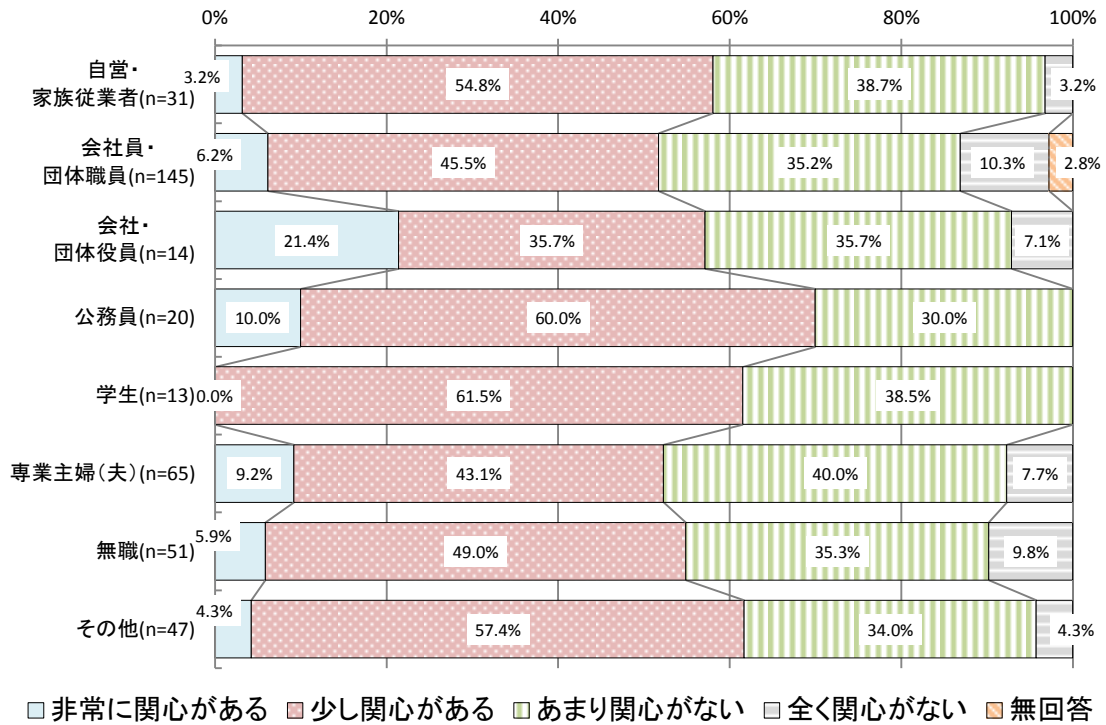
[市民活動に対する関心度 (n=389)]



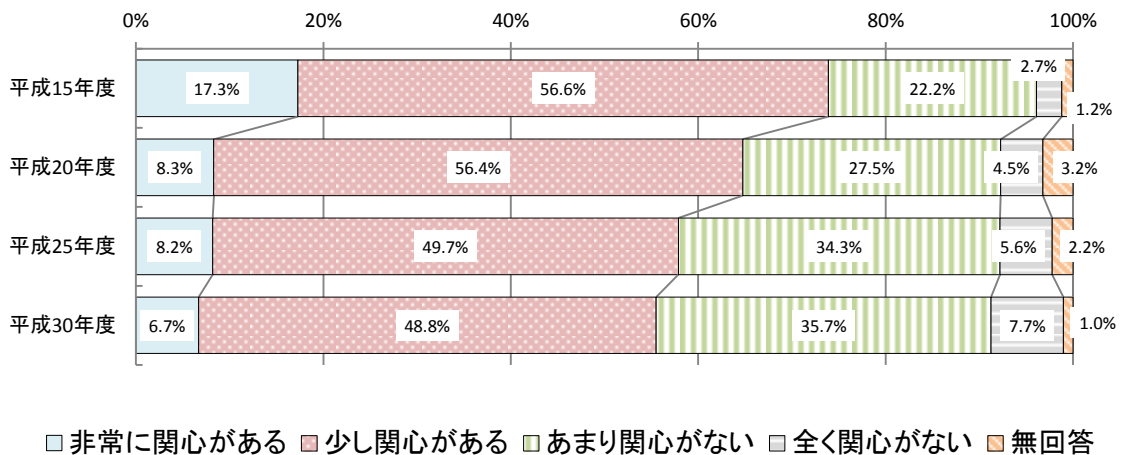
○年齢別にみた市民活動に対する関心度



○職業別にみた市民活動に対する関心度



○年度別にみた市民活動に対する関心度

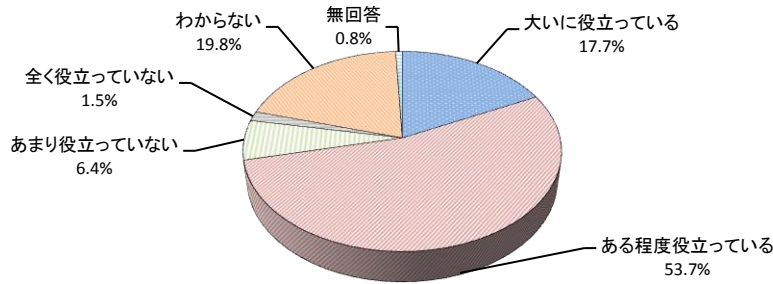


2. 市民活動の社会への貢献度

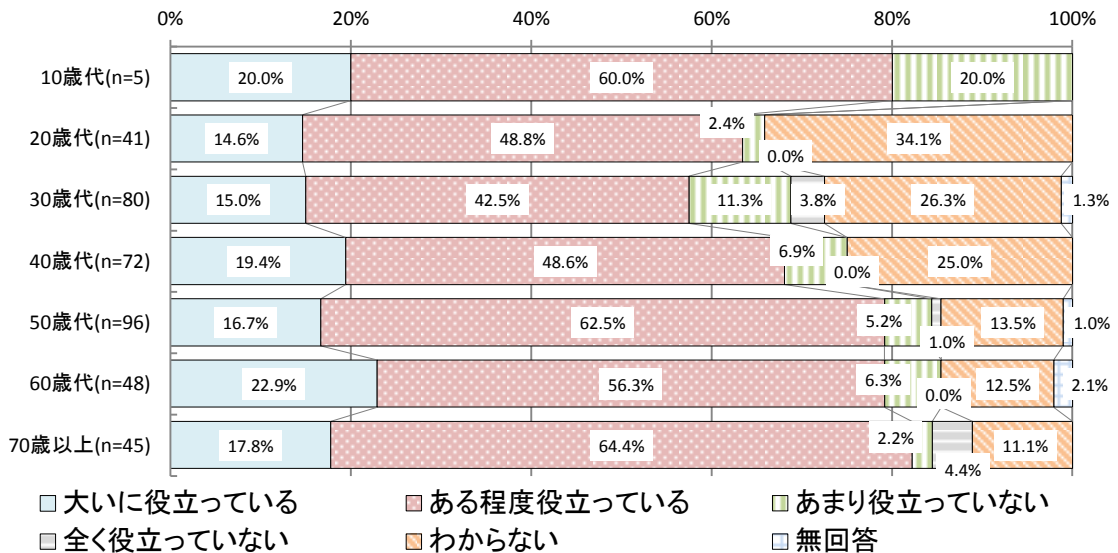
市民活動の社会への貢献度については、「大いに役立っている」が17.7%、「ある程度役立っている」が53.7%、「あまり役立っていない」が6.4%、「全く役立っていない」が1.5%、「わからない」が19.8%となっている。

これを年齢別にみると、『役立っている』（「大いに役立っている」+「ある程度役立っている」）は50歳代以上で多くなっている。一方、30歳代では6割以下となっている。

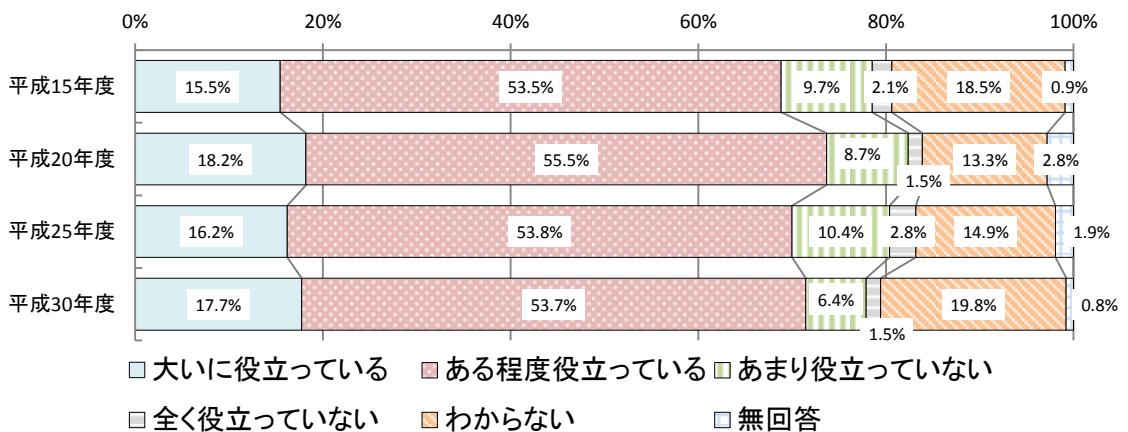
[市民活動の社会への貢献度 (n=389)]



○年齢別にみた市民活動の社会への貢献度



○年度別にみた市民活動の社会への貢献度



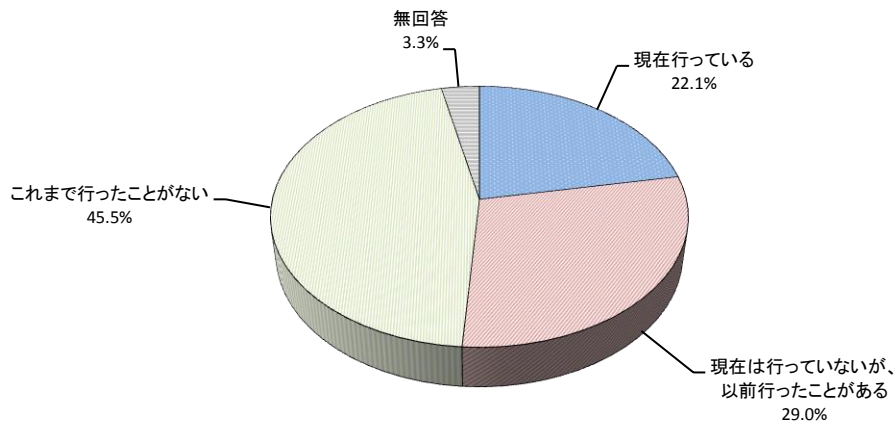
3. 市民活動経験の有無

市民活動経験の有無については「現在行なっている」が22.1%、「現在は行なっていないが、以前行ったことがある」が29.0%、「これまで行なったことがない」が45.5%となっている。

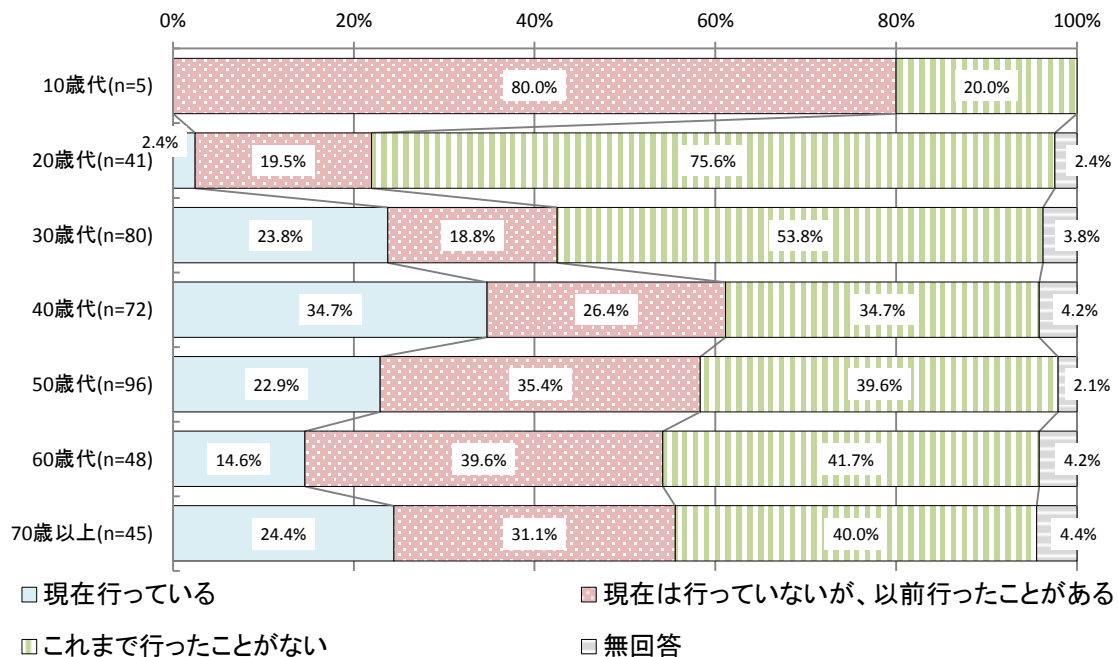
これを年齢別にみると、『市民活動を行った経験がある』（「現在行っている」+「現在は行っていないが、以前行ったことがある」）は20歳代、30歳代に比べ、40歳代以上で6割前後と高くなっている。

また、過去3回の調査結果と比較すると、『市民活動を行った経験がある』が平成25年度に比べて平成30年度は7.9ポイント上回っている。

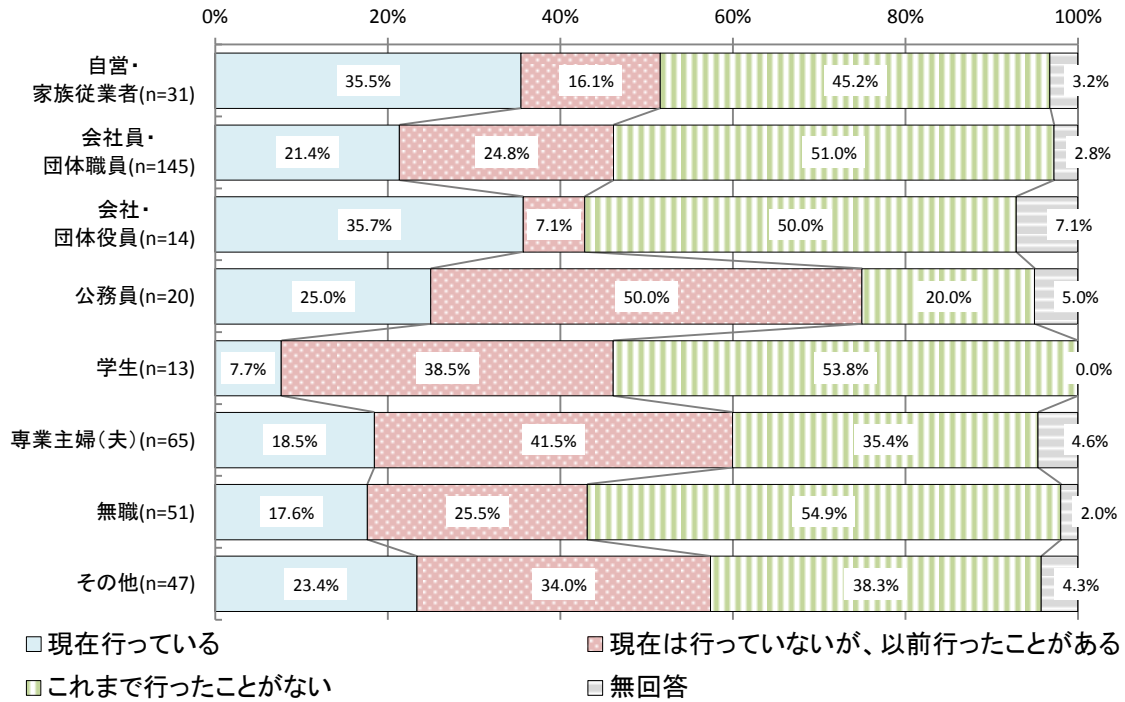
[市民活動経験の有無 (n=389)]



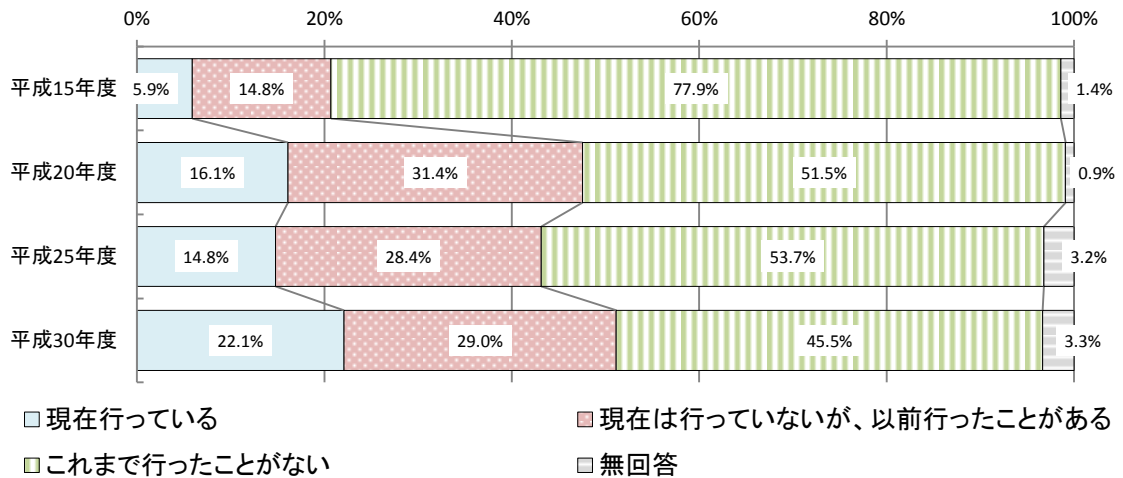
○年齢別にみた市民活動経験の有無



○職業別にみた市民活動経験の有無



○年度別にみた市民活動経験の有無



II. 市民活動の経験内容について

※市民活動を行った経験がある方に回答していただきました。

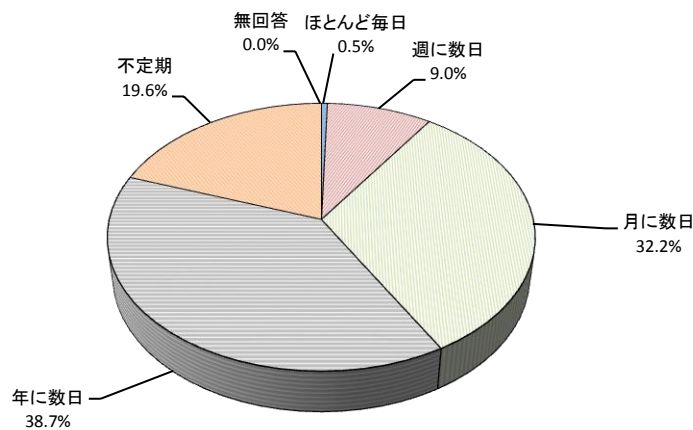
1. 市民活動の頻度

市民活動の頻度については、「年に数日」が38.7%と最も多く、次いで「月に数日」が32.2%、「不定期」が19.6%となっている。

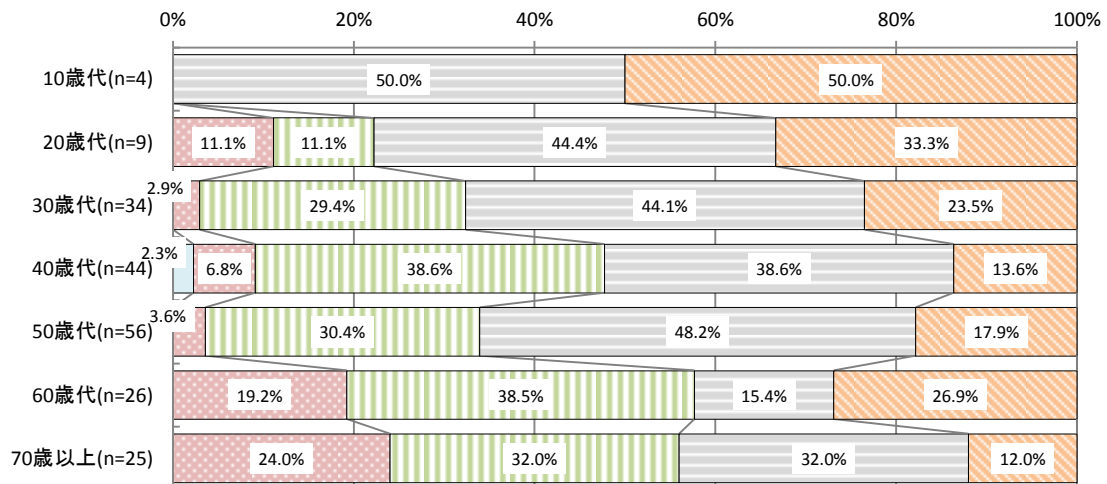
これを、年齢別にみると、10歳代～30歳代及び50歳代では「年に数日」が最も多く、40歳代と70歳代では「月に数日」と「年に数日」が同率で最も多く、60歳代では「月に数日」が最も多くなっている。

また、過去3回の調査結果と比較すると、『月に数日以上』（「ほとんど毎日」+「週に数日」+「月に数日」）市民活動を行う人の割合が平成25年度に比べて平成30年度は8.5ポイント上回っている。

[市民活動の頻度 (n=199)]

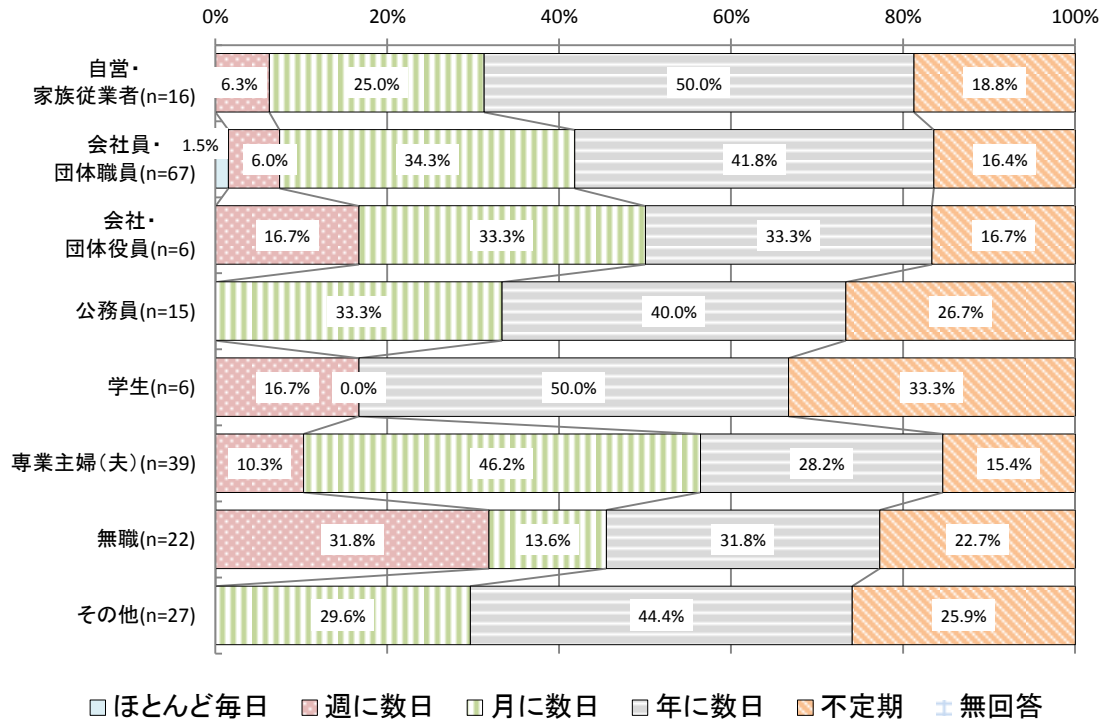


○年齢別にみた市民活動の頻度

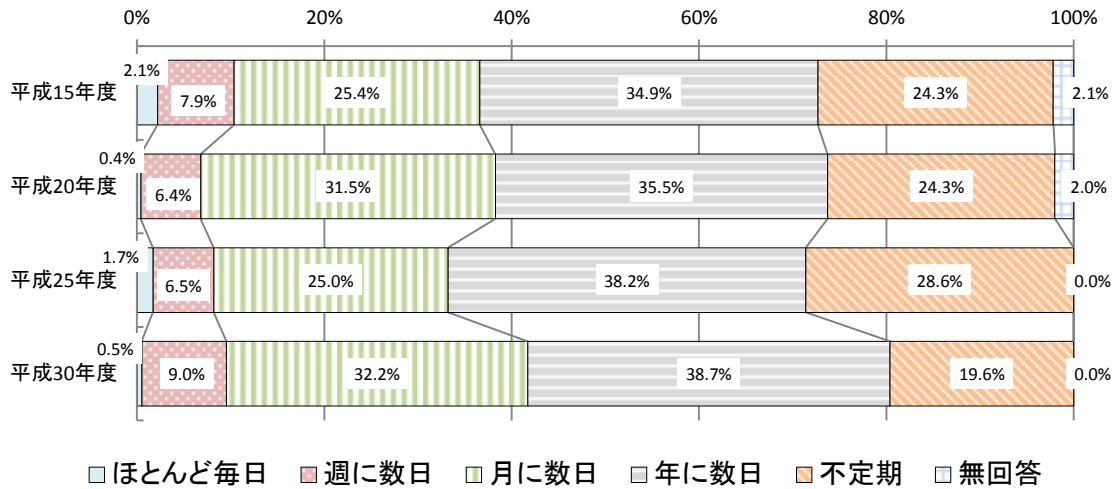


□ほとんど毎日 □週に数日 □月に数日 □年に数日 □不定期 □無回答

○職業別にみた市民活動の頻度



○年度別にみた市民活動の頻度

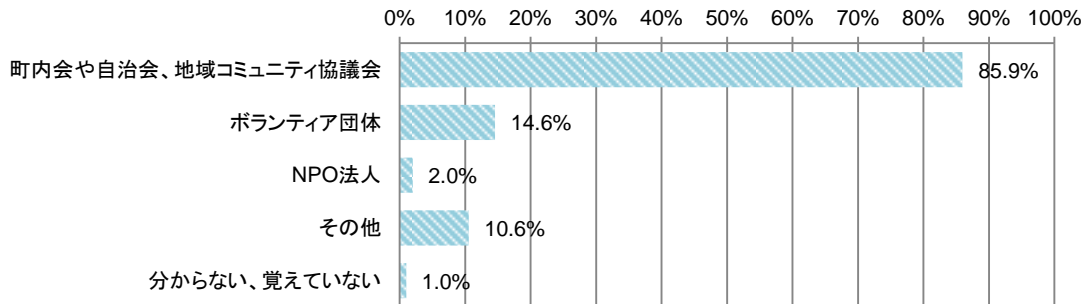


2. 経験したことのある市民活動の内容

経験したことのある市民活動の内容については、「町内会や自治会、地域コミュニティ協議会」が85.9%と最も多く、次いで「ボランティア団体」が14.6%、「その他」が10.6%となっている。

これを年齢別にみると、すべての年齢で「町内会や自治会、地域コミュニティ協議会」が最も多くなっている。

[経験したことのある市民活動の内容 (n=199)]



○年齢別にみた経験したことのある市民活動の内容

	1位	2位	3位
10歳代 (n=4)	町内会や自治会、 地域コミュニティ協議会 50.0%	ボランティア団体 25.0%	分からない、覚えていない 25.0%
20歳代 (n=9)	町内会や自治会、 地域コミュニティ協議会 66.7%	ボランティア団体 55.6%	NPO法人 11.1%
30歳代 (n=34)	町内会や自治会、 地域コミュニティ協議会 85.3%	ボランティア団体 8.8%	その他 8.8%
40歳代 (n=44)	町内会や自治会、 地域コミュニティ協議会 90.9%	その他 9.1%	ボランティア団体 4.5%
50歳代 (n=56)	町内会や自治会、 地域コミュニティ協議会 94.6%	ボランティア団体 17.9%	その他 7.1%
60歳代 (n=26)	町内会や自治会、 地域コミュニティ協議会 76.9%	ボランティア団体 19.2%	その他 15.4%
70歳以上 (n=25)	町内会や自治会、 地域コミュニティ協議会 80.0%	その他 24.0%	ボランティア団体 12.0%

注1) は全体1位、 は同2位。以下も同様とする。

注2) 10歳代の2位と3位、30歳代の2位と3位は、それぞれ同率。

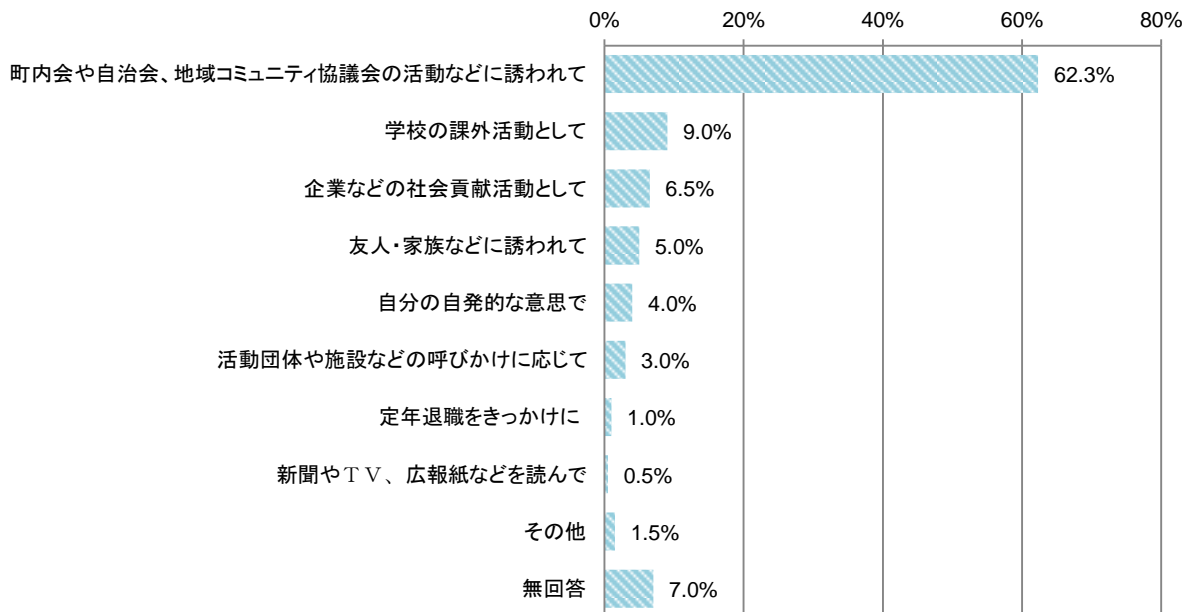
3. 市民活動に参加したきっかけ

市民活動に参加したきっかけについては、「町内会や自治会、地域コミュニティ協議会の活動などに誘われて」が62.3%と最も多く、次いで「学校の課外活動として」が9.0%、「企業などの社会貢献活動として」が6.5%となっている。

これを年齢別にみると、20歳代以外では「町内会や自治会、地域コミュニティ協議会の活動などに誘われて」が最も多くなっている。また、10～30歳代では「学校の課外活動として」も多くなっている。

また、過去3回の調査結果と比較すると、各年度において「町内会や自治会、地域コミュニティ協議会の活動などに誘われて」が最も多くなっており、その割合は上昇傾向にある。

[市民活動に参加したきっかけ (n=199)]

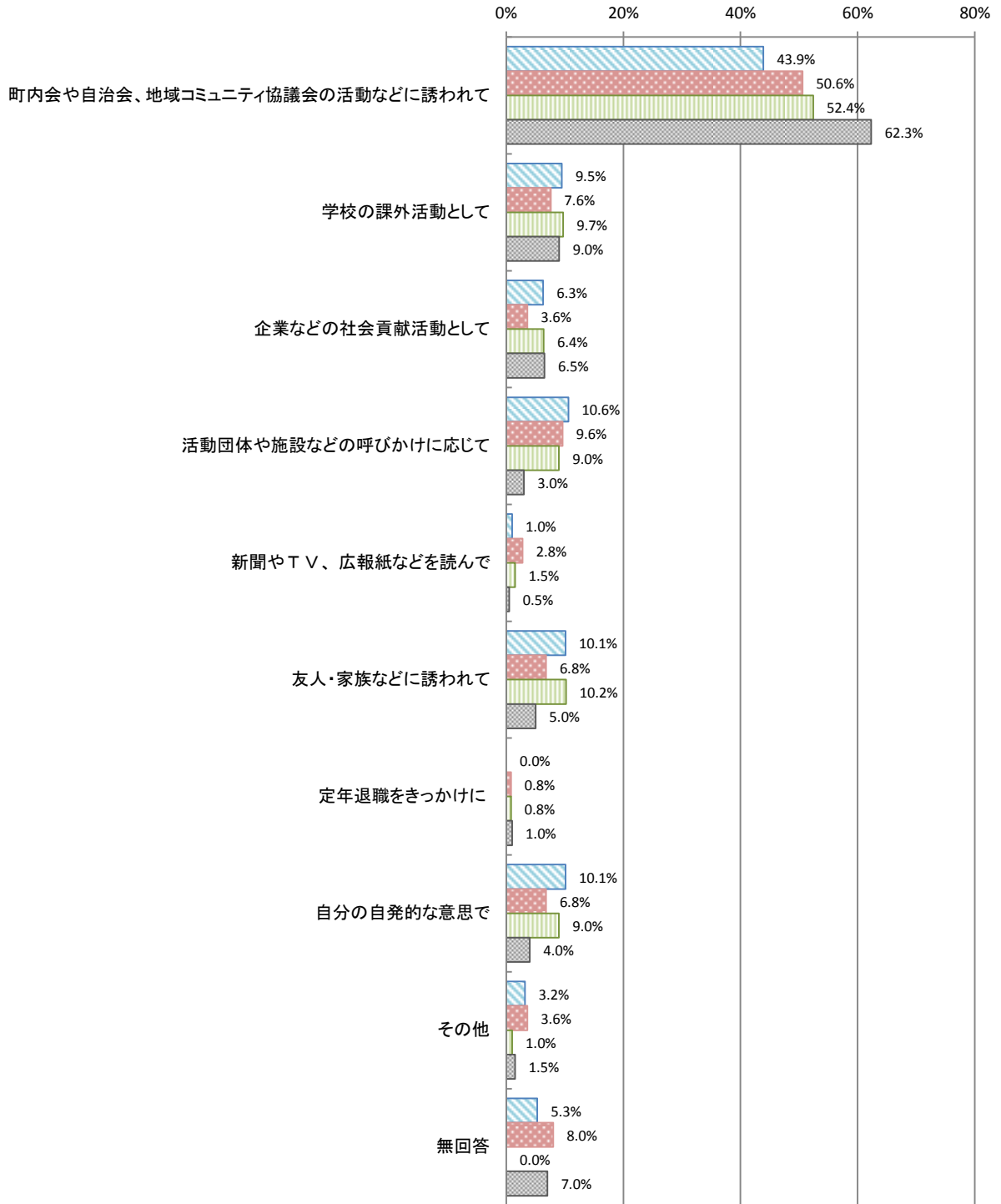


○年齢別にみた市民活動に参加したきっかけ

	1位	2位	3位
10歳代 (n=4)	町内会や自治会、地域コミュニティ協議会の活動などに誘われて	学校の課外活動として	企業などの社会貢献活動として
	50.0%	50.0%	0.0%
20歳代 (n=9)	学校の課外活動として	町内会や自治会、地域コミュニティ協議会の活動などに誘われて	活動団体や施設などの呼びかけに応じて
	44.4%	22.2%	11.1%
30歳代 (n=34)	町内会や自治会、地域コミュニティ協議会の活動などに誘われて	学校の課外活動として	企業などの社会貢献活動として
	58.8%	11.8%	11.8%
40歳代 (n=44)	町内会や自治会、地域コミュニティ協議会の活動などに誘われて	自分の自発的な意思で	学校の課外活動として
	70.5%	9.1%	6.8%
50歳代 (n=56)	町内会や自治会、地域コミュニティ協議会の活動などに誘われて	企業などの社会貢献活動として	学校の課外活動として
	64.3%	8.9%	7.1%
60歳代 (n=26)	町内会や自治会、地域コミュニティ協議会の活動などに誘われて	活動団体や施設などの呼びかけに応じて	友人・家族などに誘われて
	73.1%	7.7%	7.7%
70歳以上 (n=25)	町内会や自治会、地域コミュニティ協議会の活動などに誘われて	友人・家族などに誘われて	企業などの社会貢献活動として
	56.0%	12.0%	8.0%

注) 10歳代の1位と2位、30歳代の2位と3位、60歳代の2位と3位は、それぞれ同率。

○年度別にみた市民活動に参加したきっかけ



■ 平成15年度 ■ 平成20年度 ■ 平成25年度 ■ 平成30年度

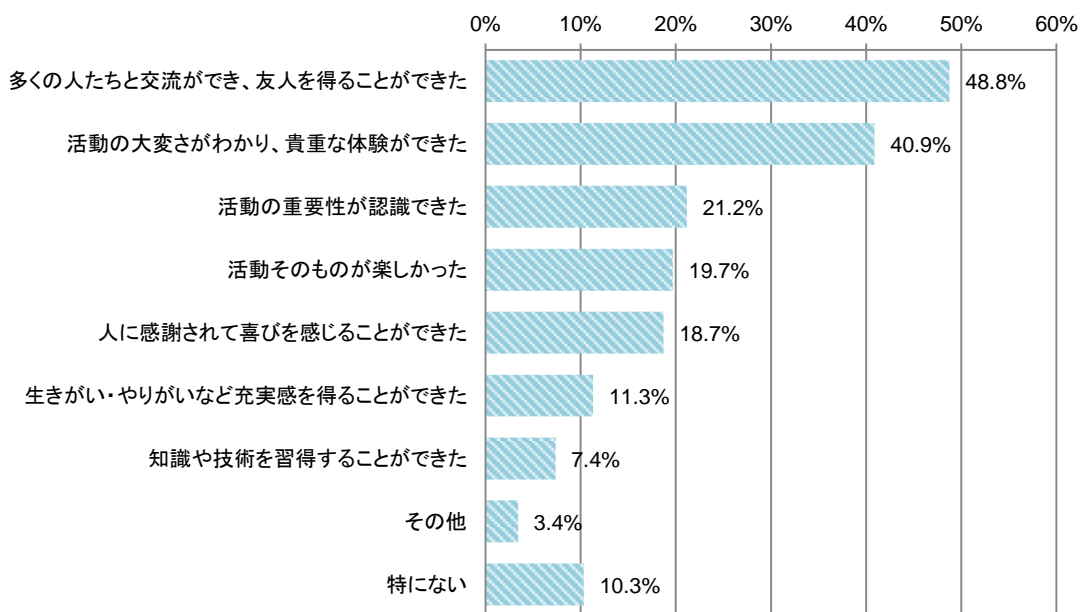
4. 市民活動を行って良かったこと

市民活動を行ってよかったことについては、「多くの人たちと交流ができ、友人を得ることができた」が48.8%と最も多く、次いで「活動の大変さがわかり、貴重な体験ができた」が40.9%、「活動の重要性が認識できた」が21.2%となっている。

これを年齢別にみると、30歳代以降では「多くの人達と交流ができ、友人を得ることができた」が最も多くなっている。

また、過去3回の調査結果と比較すると、各項目の順位に大きな変化はないが、全体的に回答個数が減少している。

[市民活動を行って良かったこと (n=203)]

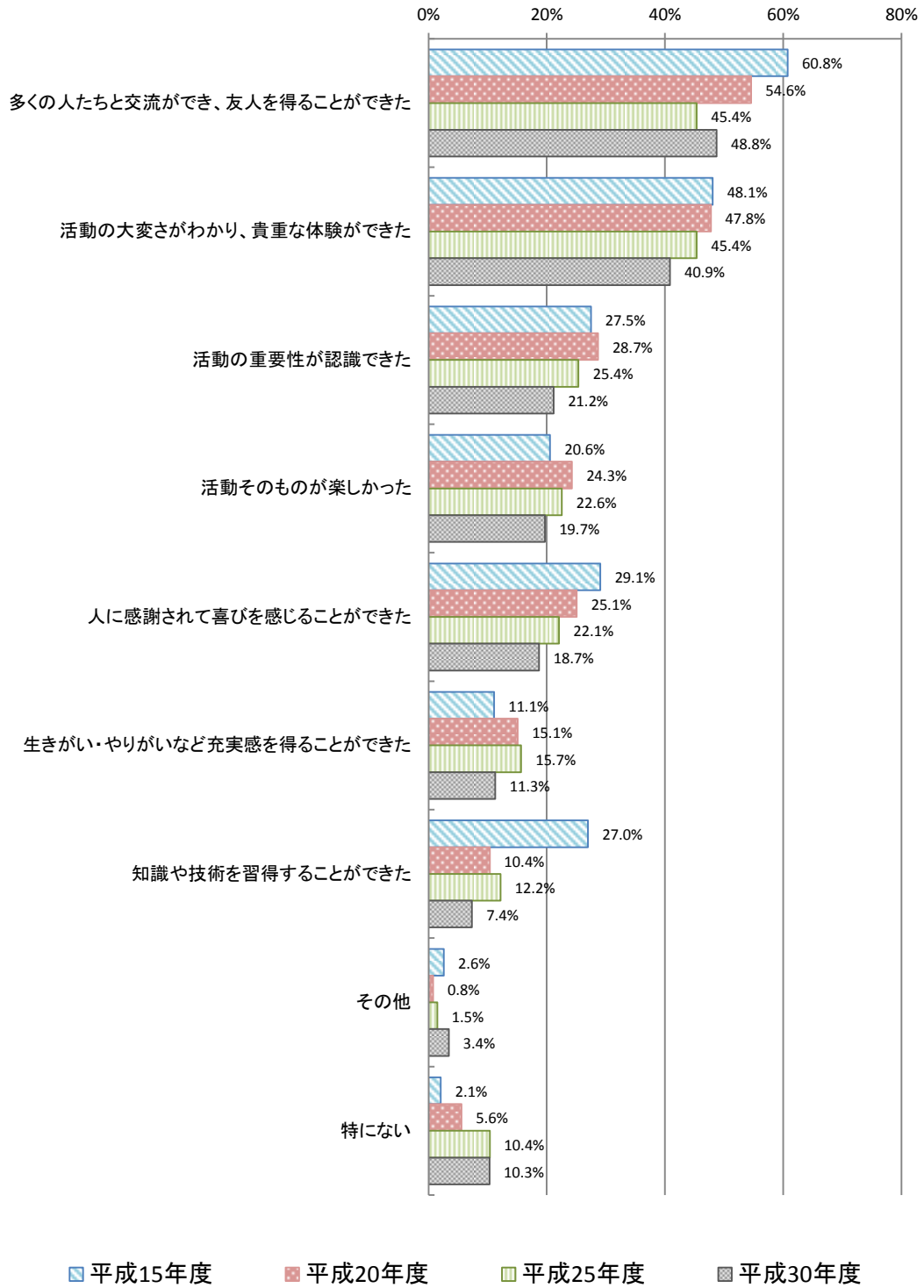


○年齢別にみた市民活動に参加して良かったこと

	1位	2位	3位
10歳代 (n=3)	特になし	多くの人たちと交流ができ、 友人を得ることができた	活動そのものが楽しかった
	66.7%	33.3%	33.3%
20歳代 (n=10)	活動の大変さがわかり、 貴重な体験ができた	活動の重要性が認識できた	生きがい・やりがいなど 充実感を得ることができた
	50.0%	50.0%	30.0%
30歳代 (n=34)	多くの人たちと交流ができ、 友人を得ることができた	活動の大変さがわかり、 貴重な体験ができた	活動そのものが楽しかった
	41.2%	32.4%	29.4%
40歳代 (n=46)	多くの人たちと交流ができ、 友人を得ることができた	活動の大変さがわかり、 貴重な体験ができた	活動の重要性が認識できた
	47.8%	45.7%	19.6%
50歳代 (n=56)	多くの人たちと交流ができ、 友人を得ることができた	活動の大変さがわかり、 貴重な体験ができた	活動の重要性が認識できた
	51.8%	48.2%	28.6%
60歳代 (n=27)	多くの人たちと交流ができ、 友人を得ることができた	活動の大変さがわかり、 貴重な体験ができた	人に感謝されて 喜びを感じることができた
	63.0%	37.0%	33.3%
70歳以上 (n=26)	多くの人たちと交流ができ、 友人を得ることができた	活動の大変さがわかり、 貴重な体験ができた	生きがい・やりがいなど 充実感を得ることができた
	53.8%	34.6%	19.2%

注) 10歳代の2位と3位、20歳代の1位と2位は、それぞれ同率。

○年度別にみた市民活動に参加して良かったこと



Ⅲ. 市民活動未経験の理由と参加意向等について

※市民活動を行った経験の無い方に回答していただきました。

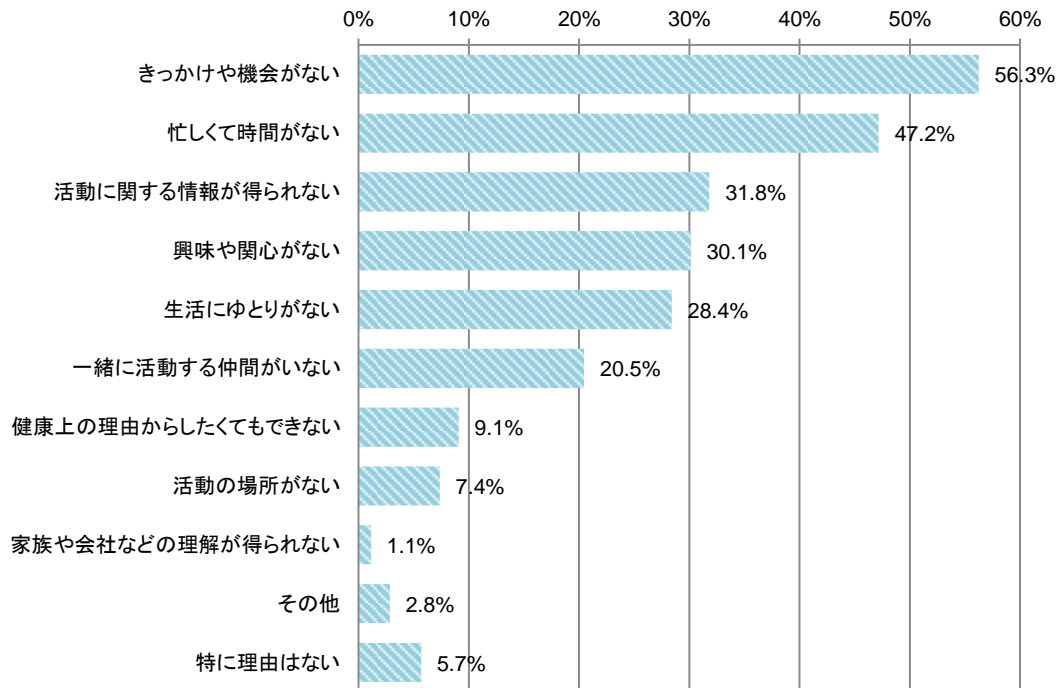
1. 市民活動をこれまで行ったことがない理由

市民活動をこれまで行ったことがない理由については、「きっかけや機会がない」が56.3%と最も多く、次いで「忙しくて時間がない」が47.2%、「活動に関する情報が得られない」が31.8%となっている。

これを年齢別にみると、10～60歳代では「きっかけや機会がない」が、70歳以上では「忙しくて時間がない」が最も多くなっている。

また、過去3回の調査結果と比較すると、上位3項目の順位は変わらないが、「忙しくて時間がない」や「興味や関心がない」が上昇傾向にある。

[市民活動をこれまで行ったことがない理由 (n=176)]

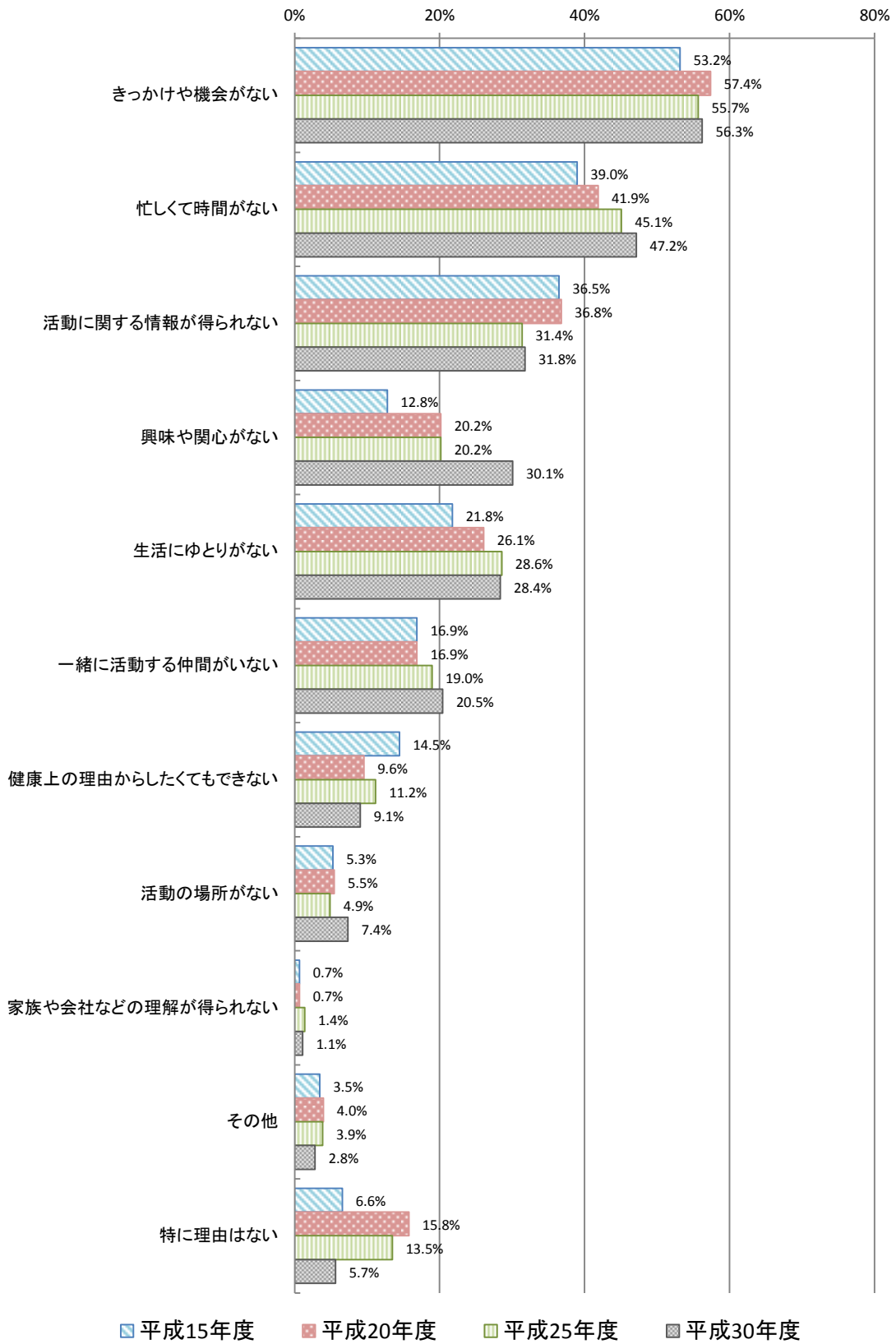


○年齢別にみた市民活動をこれまでやったことがない理由

	1位	2位	3位
10歳代 (n=1)	きっかけや機会がない	忙しくて時間がない	興味や関心がない
	100.0%	100.0%	0.0%
20歳代 (n=31)	きっかけや機会がない	忙しくて時間がない	活動に関する情報が得られない
	64.5%	54.8%	35.5%
30歳代 (n=42)	きっかけや機会がない	忙しくて時間がない	興味や関心がない
	61.9%	59.5%	45.2%
40歳代 (n=25)	きっかけや機会がない	興味や関心がない	活動に関する情報が得られない
	72.0%	52.0%	44.0%
50歳代 (n=38)	きっかけや機会がない	忙しくて時間がない	生活にゆとりがない
	52.6%	42.1%	31.6%
60歳代 (n=20)	きっかけや機会がない	忙しくて時間がない	活動に関する情報が得られない
	45.0%	30.0%	25.0%
70歳以上 (n=18)	忙しくて時間がない	健康上の理由から したくてもできない	きっかけや機会がない
	44.4%	38.9%	27.8%

注) 10歳代の1位と2位は同率。

○年度別にみた市民活動をこれまでやったことがない理由



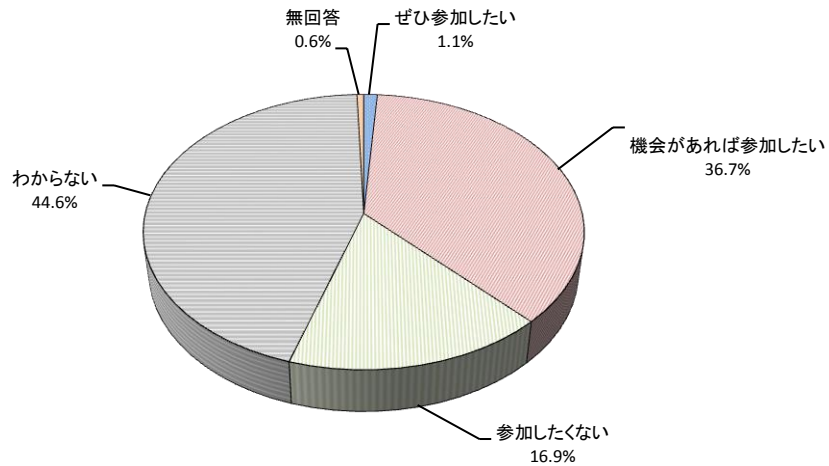
2. 市民活動への参加意向

市民活動への参加意向については、「ぜひ参加したい」が1.1%、「機会があれば参加したい」が36.7%、「参加したくない」が16.9%、「わからない」が44.6%となっている。

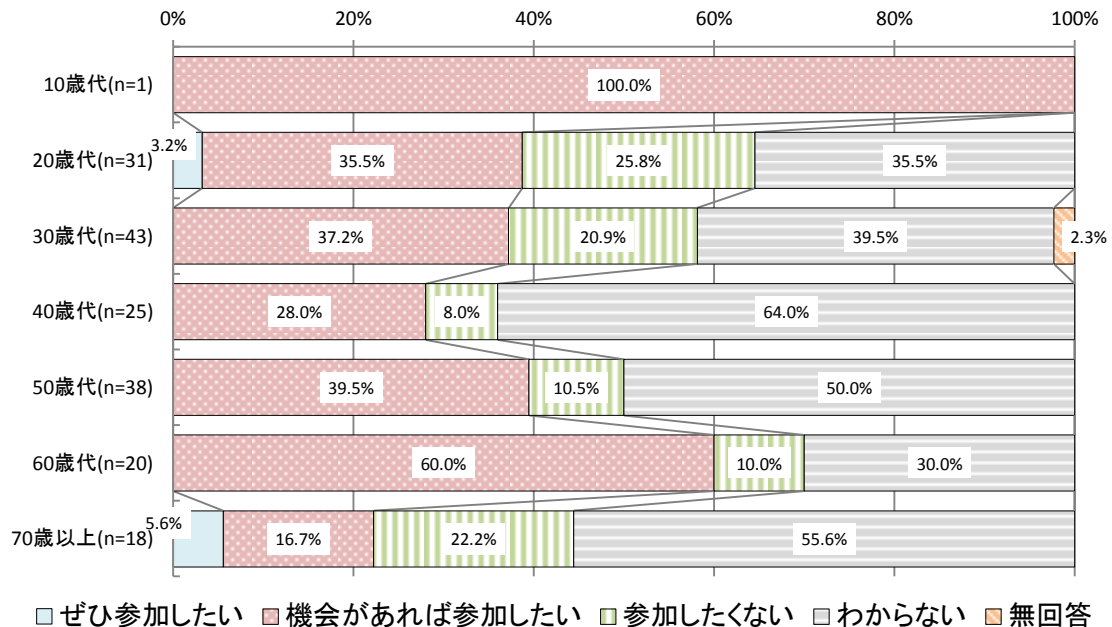
これを年齢別にみると、「機会があれば参加したい」が60歳代で多くなっている。

また、過去3回の調査結果と比較すると、平成30年度は過去と比較し『参加したい』（「ぜひ参加したい」+「機会があれば参加したい」の合計）が最も低くなっており、「参加したくない」は増加している。

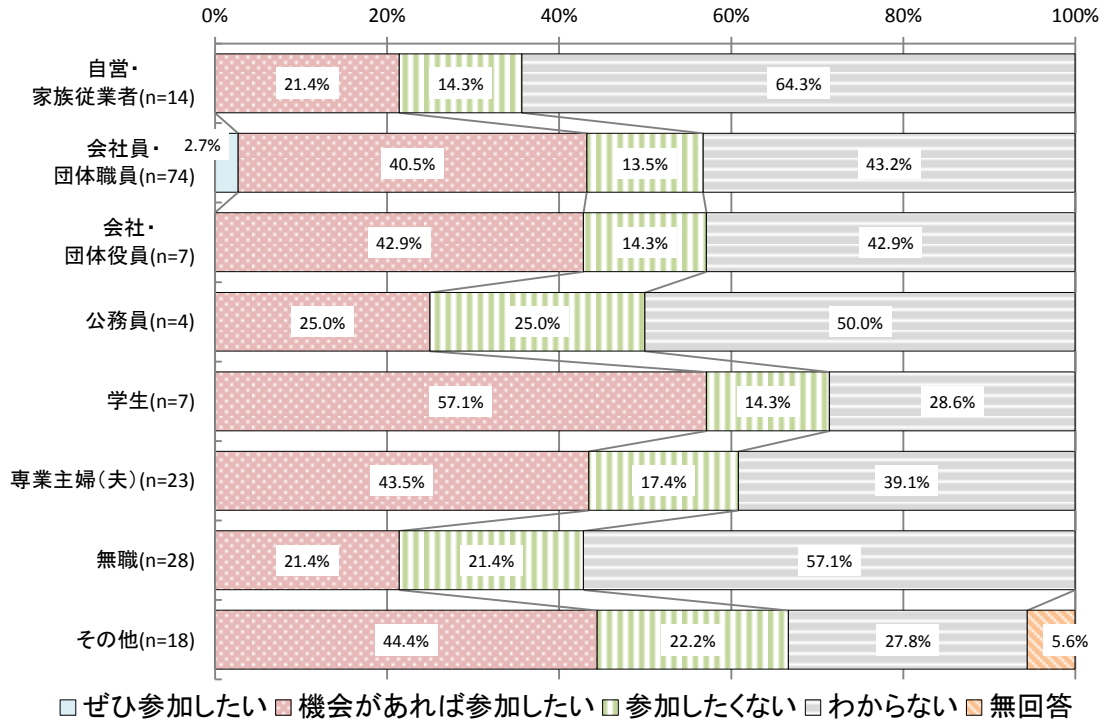
[市民活動への参加意向 (n=177)]



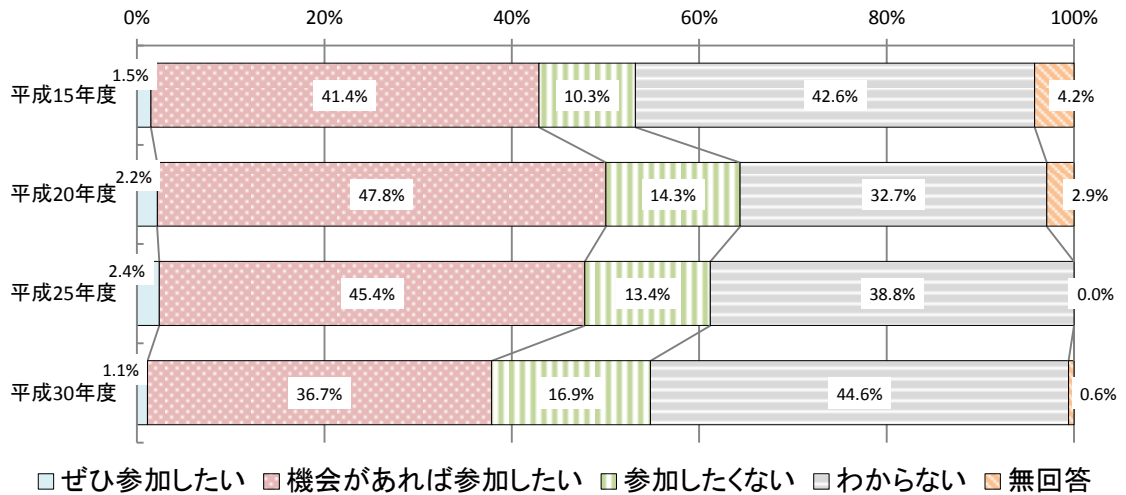
○年齢別にみた市民活動への参加意向



○職業別にみた市民活動への参加意向



○年度別にみた市民活動への参加意向



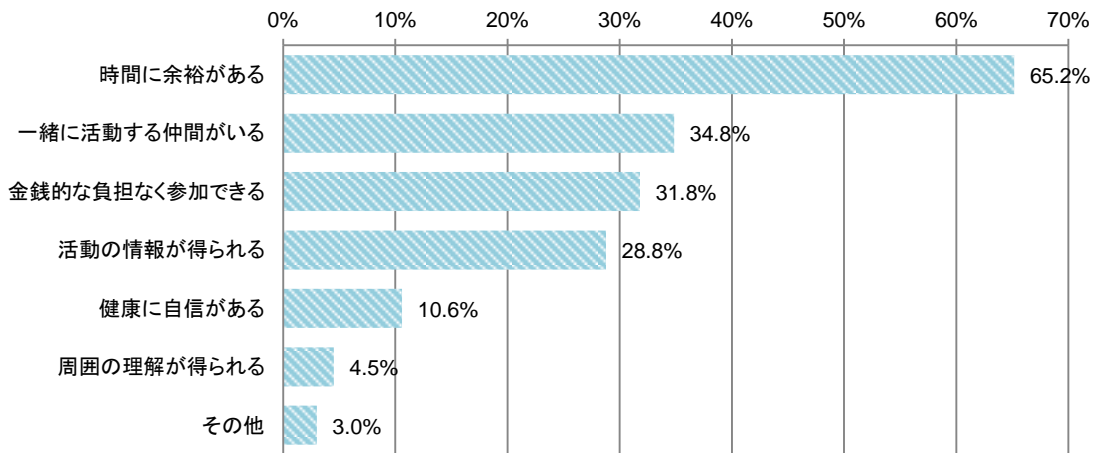
3. 市民活動に参加するための条件

市民活動に参加するための条件については、「時間に余裕がある」が65.2%と最も多く、次いで「一緒に活動する仲間がいる」が34.8%、「金銭的な負担なく参加できる」が31.8%となっている。

これを年齢別にみると、すべての年齢で「時間に余裕がある」が最も多くなっている。

また、過去3回の調査結果と比較すると、すべての年度で「時間に余裕がある」が最も多くなっている。

[市民活動に参加するための条件 (n=66)]

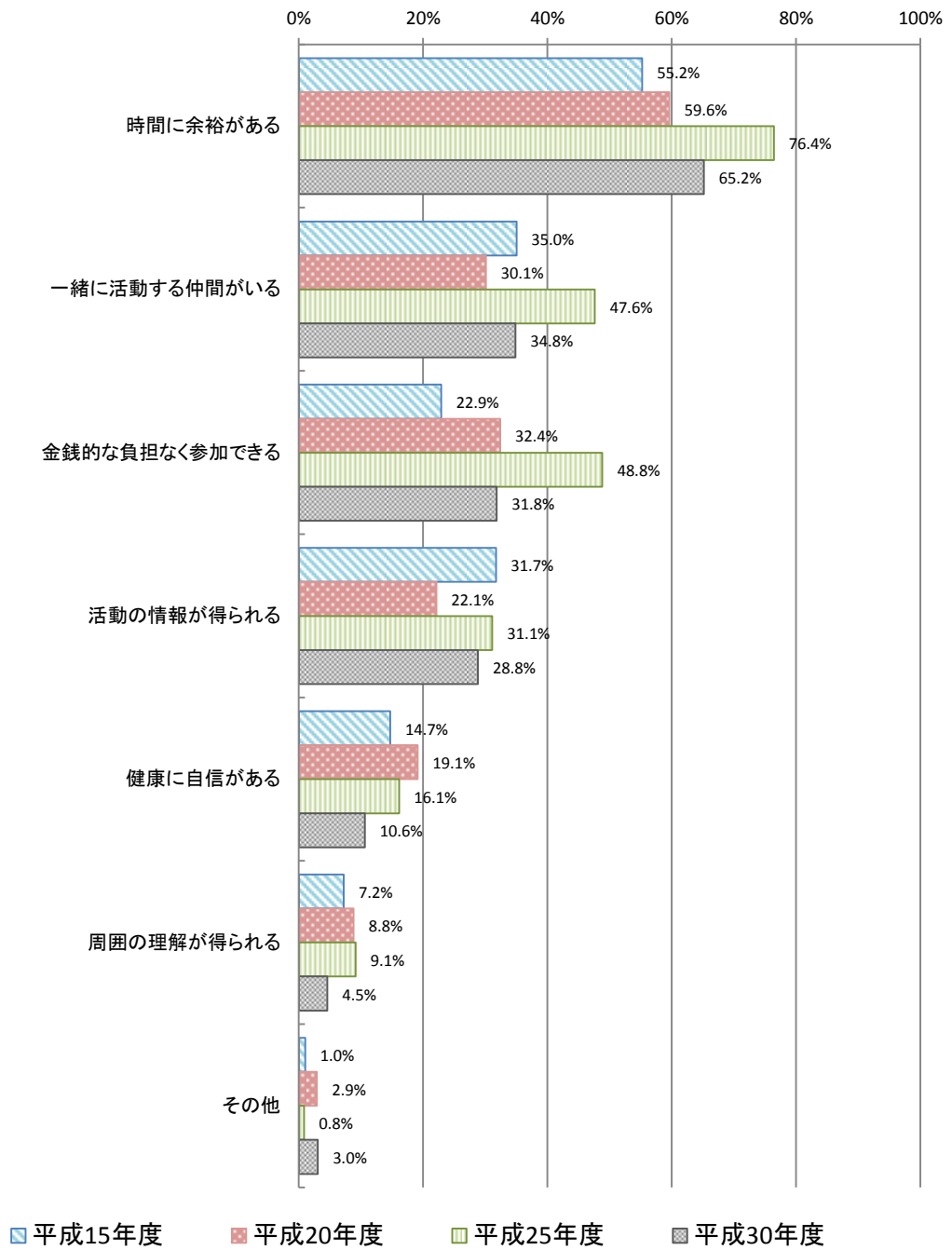


○年齢別にみた市民活動に参加するための条件

	1位	2位	3位
10歳代 (n=1)	時間に余裕がある	一緒に活動する仲間がいる	健康に自信がある
	100.0%	100.0%	0.0%
20歳代 (n=12)	時間に余裕がある	一緒に活動する仲間がいる	活動の情報が得られる
	58.3%	58.3%	41.7%
30歳代 (n=16)	時間に余裕がある	金銭的な負担なく参加できる	活動の情報が得られる
	68.8%	43.8%	31.3%
40歳代 (n=7)	時間に余裕がある	活動の情報が得られる	一緒に活動する仲間がいる
	71.4%	57.1%	28.6%
50歳代 (n=15)	時間に余裕がある	金銭的な負担なく参加できる	健康に自信がある
	60.0%	33.3%	26.7%
60歳代 (n=11)	時間に余裕がある	一緒に活動する仲間がいる	金銭的な負担なく参加できる
	72.7%	45.5%	27.3%
70歳以上 (n=4)	時間に余裕がある	周囲の理解が得られる	活動の情報が得られる
	50.0%	50.0%	50.0%

注) 10歳代の1位と2位、20歳代の1位と2位、70歳以上の1位と2位、3位は、それぞれ同率。

○年度別にみた市民活動に参加するための条件

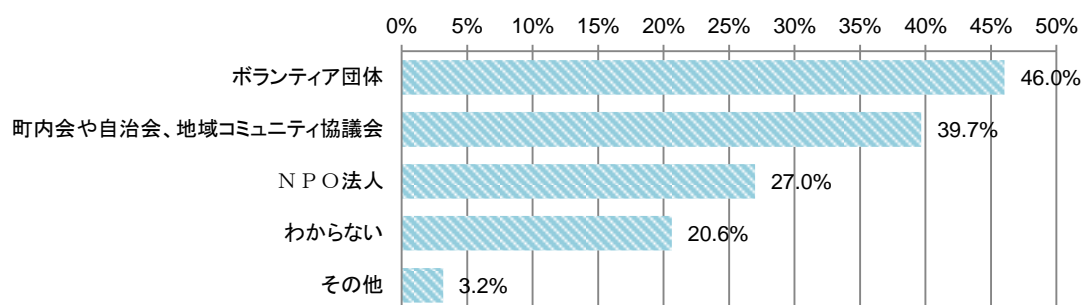


4. 参加してみたい市民活動

参加してみたい市民活動については、「ボランティア団体」が46.0%と最も多く、次いで「町内会や自治会、地域コミュニティ協議会」が39.7%、「NPO法人」が27.0%となっている。

これを年齢別にみると、20歳代と50歳代、60歳代では「ボランティア団体」が、30歳代と40歳代、70歳以上では「町内会や自治会、地域コミュニティ協議会」が最も多くなっている。

[参加してみたい市民活動 (n=63)]



○年齢別にみた参加してみたい市民活動

	1位	2位	3位
10歳代 (n=1)	わからない 100.0%	町内会や自治会、 地域コミュニティ協議会 0.0%	ボランティア団体 0.0%
20歳代 (n=11)	ボランティア団体 45.5%	NPO法人 36.4%	町内会や自治会、 地域コミュニティ協議会 18.2%
30歳代 (n=15)	町内会や自治会、 地域コミュニティ協議会 46.7%	ボランティア団体 33.3%	わからない 26.7%
40歳代 (n=7)	町内会や自治会、 地域コミュニティ協議会 57.1%	わからない 57.1%	ボランティア団体 28.6%
50歳代 (n=14)	ボランティア団体 71.4%	NPO法人 42.9%	町内会や自治会、 地域コミュニティ協議会 35.7%
60歳代 (n=11)	ボランティア団体 63.6%	町内会や自治会、 地域コミュニティ協議会 36.4%	NPO法人 18.2%
70歳以上 (n=4)	町内会や自治会、 地域コミュニティ協議会 75.0%	NPO法人 25.0%	ボランティア団体 0.0%

注) 40歳代の1位と2位は同率。

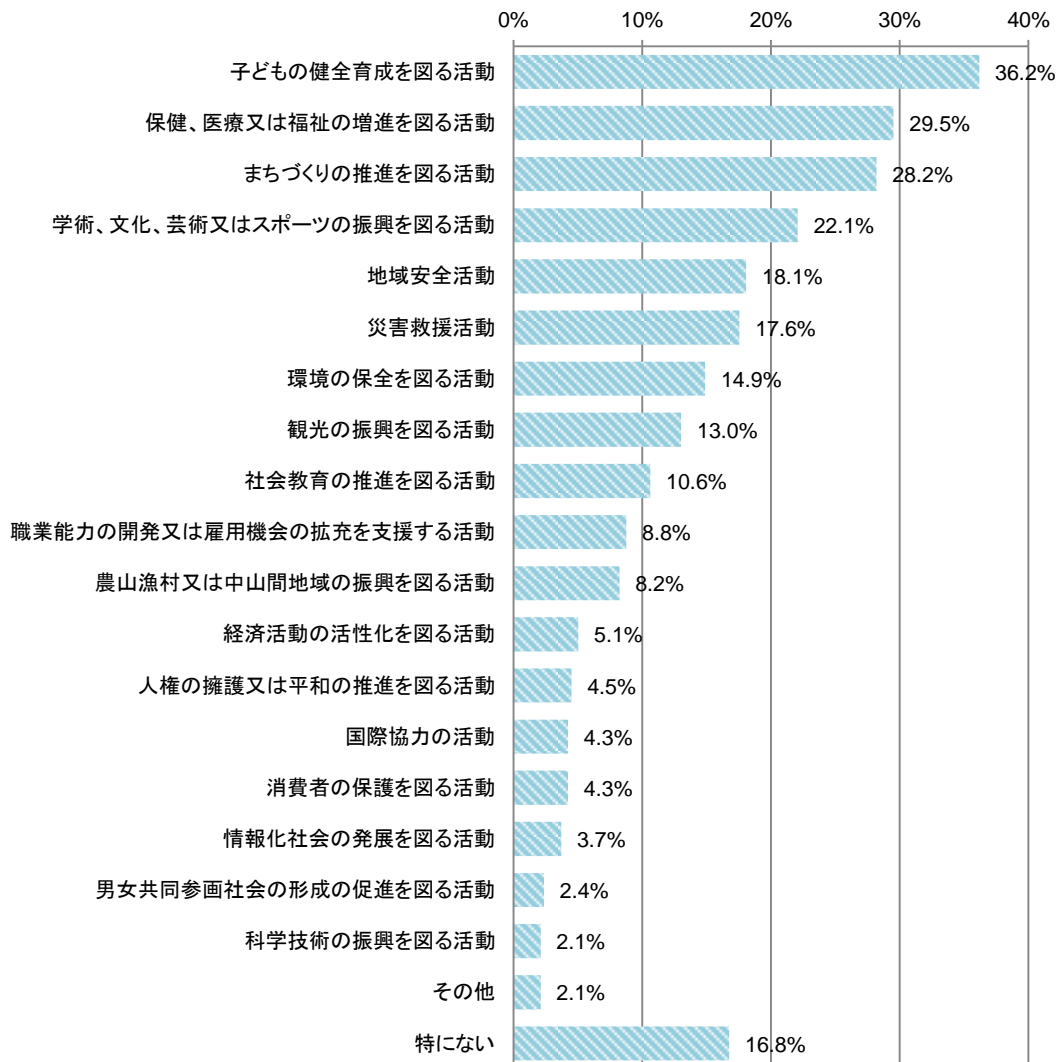
IV. 参加したい市民活動の分野

1. 参加したい市民活動の分野

参加したい市民活動の分野については、「子どもの健全育成を図る活動」が36.2%と最も多く、次いで「保健、医療又は福祉の増進を図る活動」が29.5%、「まちづくりの推進を図る活動」が28.2%となっている。

これを年齢別にみると、20歳代では「子どもの健全育成を図る活動」と「まちづくりの推進を図る活動」が同率で最も多く、30～40歳代では「子どもの健全育成を図る活動」が、50歳代と70歳以上は「保健、医療又は福祉の増進を図る活動」が、60歳代では「まちづくりの推進を図る活動」が最も多くなっている。

[参加したい市民活動の分野 (n=376)]



○年齢別にみた参加したい市民活動の分野

	1位	2位	3位
10歳代 (n=4)	学術、文化、芸術 又はスポーツの振興を図る活動	特になし	保健、医療又は福祉の 増進を図る活動
	50.0%	50.0%	25.0%
20歳代 (n=41)	子どもの健全育成を図る活動	まちづくりの推進を図る活動	学術、文化、芸術 又はスポーツの振興を図る活動
	34.1%	34.1%	31.7%
30歳代 (n=76)	子どもの健全育成を図る活動	保健、医療又は福祉の 増進を図る活動	まちづくりの推進を図る活動
	48.7%	30.3%	23.7%
40歳代 (n=70)	子どもの健全育成を図る活動	まちづくりの推進を図る活動	学術、文化、芸術 又はスポーツの振興を図る活動
	51.4%	34.3%	28.6%
50歳代 (n=92)	保健、医療又は福祉の 増進を図る活動	まちづくりの推進を図る活動	災害救援活動
	35.9%	28.3%	27.2%
60歳代 (n=46)	まちづくりの推進を図る活動	子どもの健全育成を図る活動	地域安全活動
	34.8%	32.6%	26.1%
70歳以上 (n=45)	保健、医療又は福祉の 増進を図る活動	学術、文化、芸術 又はスポーツの振興を図る活動	子どもの健全育成を図る活動
	35.6%	22.2%	20.0%

注) 10歳代の1位と2位、20歳代の1位と2位は、それぞれ同率。

V. これからの市民活動について

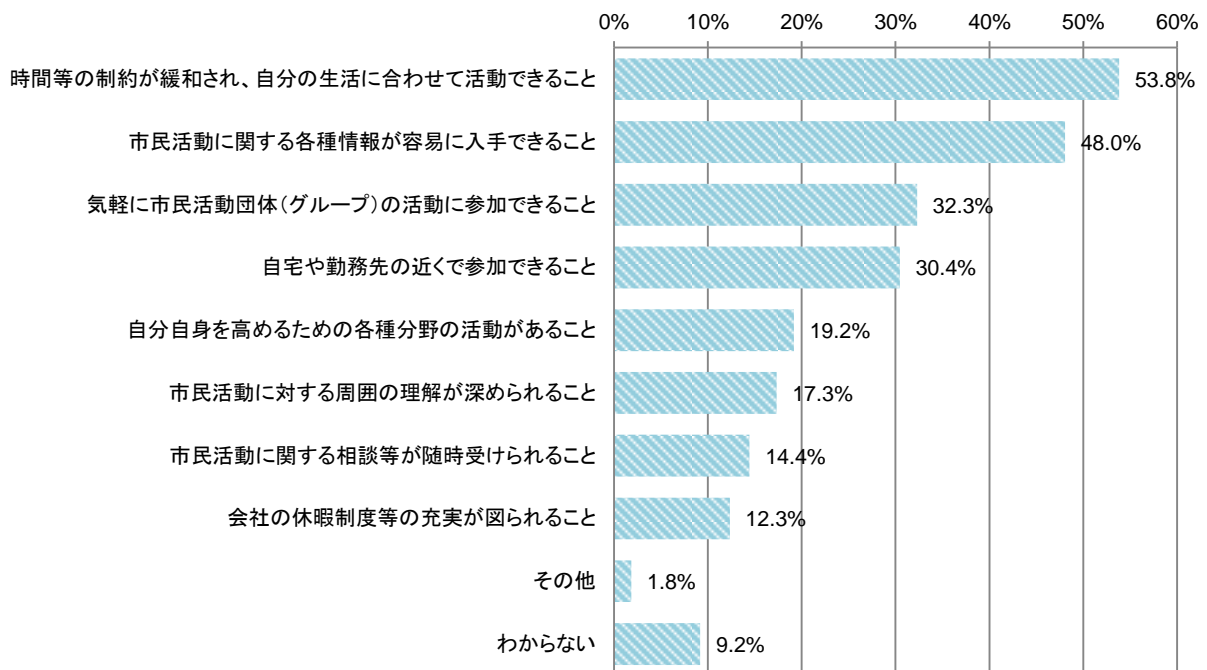
1. 市民活動を行いやすい環境づくりのための条件

市民活動を行いやすい環境づくりのための条件については、「時間的な制約が緩和され、自分の生活に合わせて活動できること」が53.8%と最も多く、次いで「市民活動に関する各種情報が容易に入手できること」が48.0%、「気軽に市民活動団体（グループ）の活動に参加できること」が32.3%となっている。

これを年齢別にみると、10歳代と60歳代は「市民活動に関する各種情報が容易に入手できること」が、20～50歳代は「時間等の制約が緩和され、自分の生活に合わせて活動できること」が、70歳以上は「時間等の制約が緩和され、自分の生活に合わせて活動できること」と「気軽に市民活動団体（グループ）の活動に参加できること」がそれぞれ同率で最も多くなっている。

また、過去3回の調査結果と比較すると、「時間的な制約が緩和され、自分の生活に合わせて活動できること」と「自宅や勤務先の近くで参加できること」が年々上昇傾向にある。

[市民活動を行いやすい環境づくりのための条件 (n=381)]



○年齢別にみた市民活動を行いやすい環境のための条件

	1位	2位	3位
10歳代 (n=5)	市民活動に関する各種情報が容易に入手できること	市民活動に対する周囲の理解が深められること	気軽に市民活動団体（グループ）の活動に参加できること
	60.0%	20.0%	20.0%
20歳代 (n=41)	時間等の制約が緩和され、自分の生活に合わせて活動できること	市民活動に関する各種情報が容易に入手できること	自宅や勤務先の近くで参加できること
	51.2%	43.9%	43.9%
30歳代 (n=77)	時間等の制約が緩和され、自分の生活に合わせて活動できること	市民活動に関する各種情報が容易に入手できること	気軽に市民活動団体（グループ）の活動に参加できること
	55.8%	48.1%	31.2%
40歳代 (n=72)	時間等の制約が緩和され、自分の生活に合わせて活動できること	市民活動に関する各種情報が容易に入手できること	気軽に市民活動団体（グループ）の活動に参加できること
	62.5%	55.6%	33.3%
50歳代 (n=93)	時間等の制約が緩和され、自分の生活に合わせて活動できること	市民活動に関する各種情報が容易に入手できること	気軽に市民活動団体（グループ）の活動に参加できること
	57.0%	49.5%	30.1%
60歳代 (n=48)	市民活動に関する各種情報が容易に入手できること	時間等の制約が緩和され、自分の生活に合わせて活動できること	気軽に市民活動団体（グループ）の活動に参加できること
	50.0%	45.8%	29.2%
70歳以上 (n=43)	時間等の制約が緩和され、自分の生活に合わせて活動できること	気軽に市民活動団体（グループ）の活動に参加できること	市民活動に関する各種情報が容易に入手できること
	46.5%	46.5%	34.9%

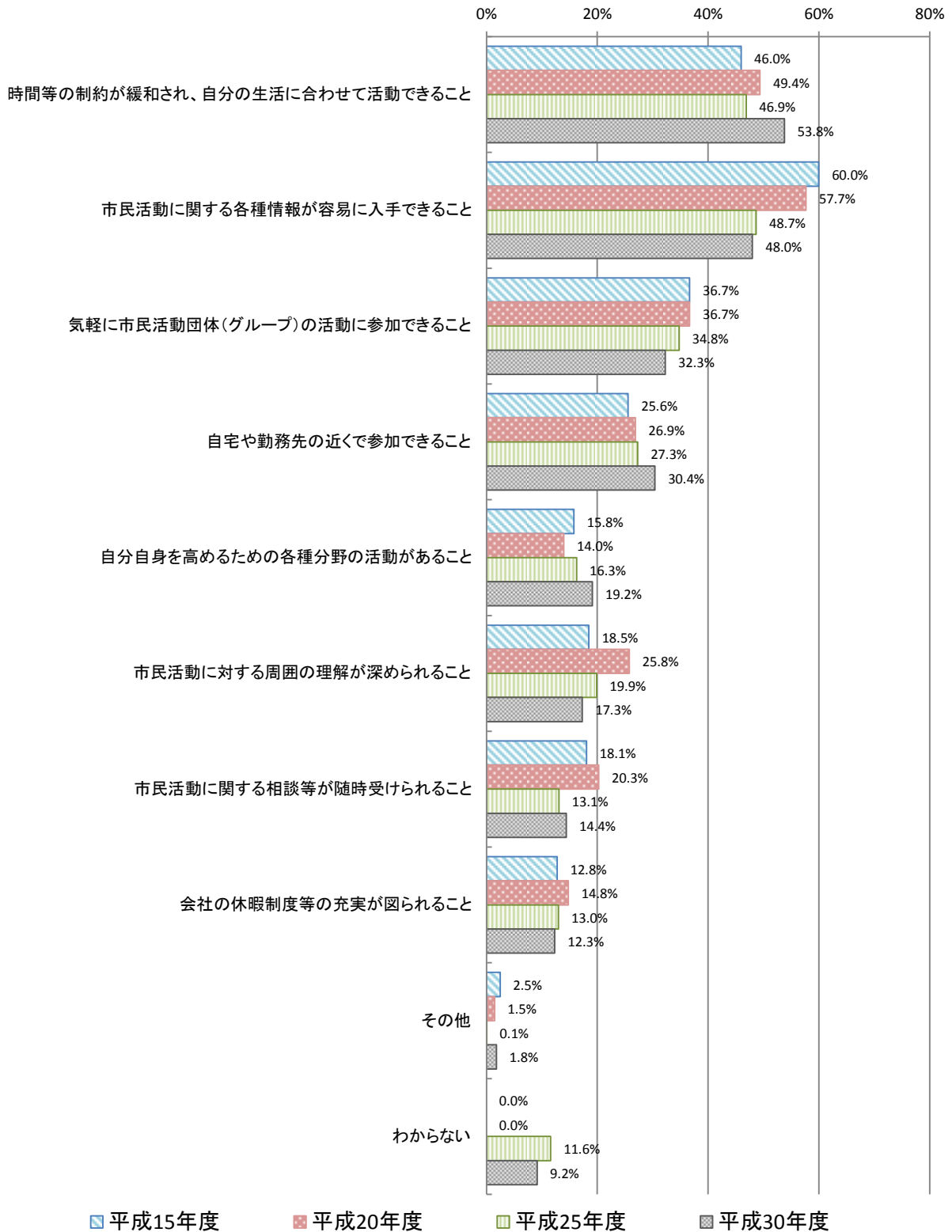
注) 10歳代の2位と3位、20歳代の2位と3位、70歳以上の1位と2位は、それぞれ同率。

○職業別にみた市民活動を行いやすい環境のための条件

	1位	2位	3位
自営・ 家族従業者 (n=31)	市民活動に関する各種情報が 容易に入手できること	時間等の制約が緩和され、自 分の生活に合わせて活動でき ること	自宅や勤務先の近くで参加で きること
	61.3%	58.1%	32.3%
会社員・ 団体職員 (n=142)	時間等の制約が緩和され、自 分の生活に合わせて活動でき ること	市民活動に関する各種情報が 容易に入手できること	自宅や勤務先の近くで参加で きること
	57.7%	50.0%	31.0%
会社・ 団体役員 (n=14)	時間等の制約が緩和され、自 分の生活に合わせて活動でき ること	自宅や勤務先の近くで参加で きること	市民活動に関する各種情報が 容易に入手できること
	78.6%	57.1%	42.9%
公務員 (n=20)	時間等の制約が緩和され、自 分の生活に合わせて活動でき ること	気軽に市民活動団体（グルー プ）の活動に参加できること	市民活動に関する各種情報が 容易に入手できること
	75.0%	40.0%	30.0%
学生 (n=13)	市民活動に関する各種情報が 容易に入手できること	気軽に市民活動団体（グルー プ）の活動に参加できること	時間等の制約が緩和され、自 分の生活に合わせて活動でき ること
	61.5%	38.5%	38.5%
専業主婦 （夫） (n=64)	市民活動に関する各種情報が 容易に入手できること	時間等の制約が緩和され、自 分の生活に合わせて活動でき ること	気軽に市民活動団体（グルー プ）の活動に参加できること
	54.7%	46.9%	46.9%
無職 (n=50)	時間等の制約が緩和され、自 分の生活に合わせて活動でき ること	市民活動に関する各種情報が 容易に入手できること	気軽に市民活動団体（グルー プ）の活動に参加できること
	46.0%	40.0%	40.0%
その他 (n=44)	時間等の制約が緩和され、自 分の生活に合わせて活動でき ること	市民活動に関する各種情報が 容易に入手できること	自宅や勤務先の近くで参加で きること
	47.7%	40.9%	27.3%

注) 学生の2位と3位、専業主婦（夫）の2位と3位、無職の2位と3位は、それぞれ同率。

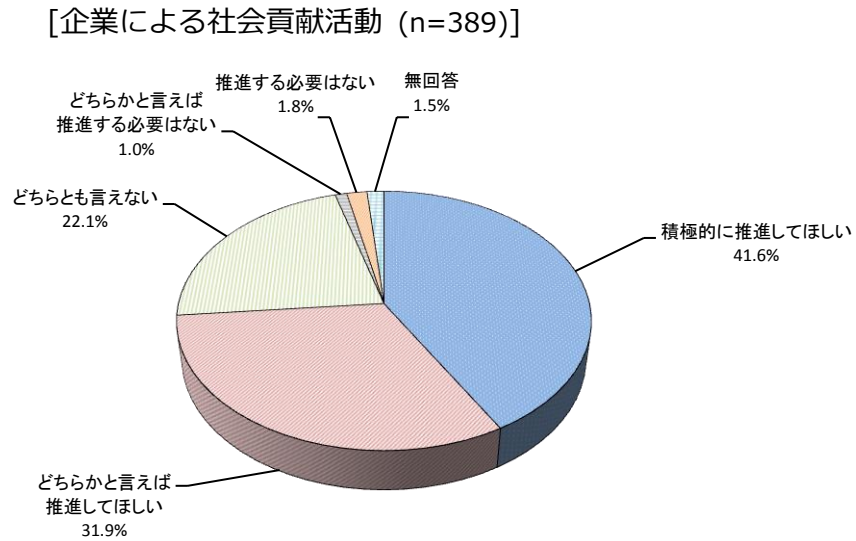
○年度別にみた市民活動を行しやすい環境のための条件



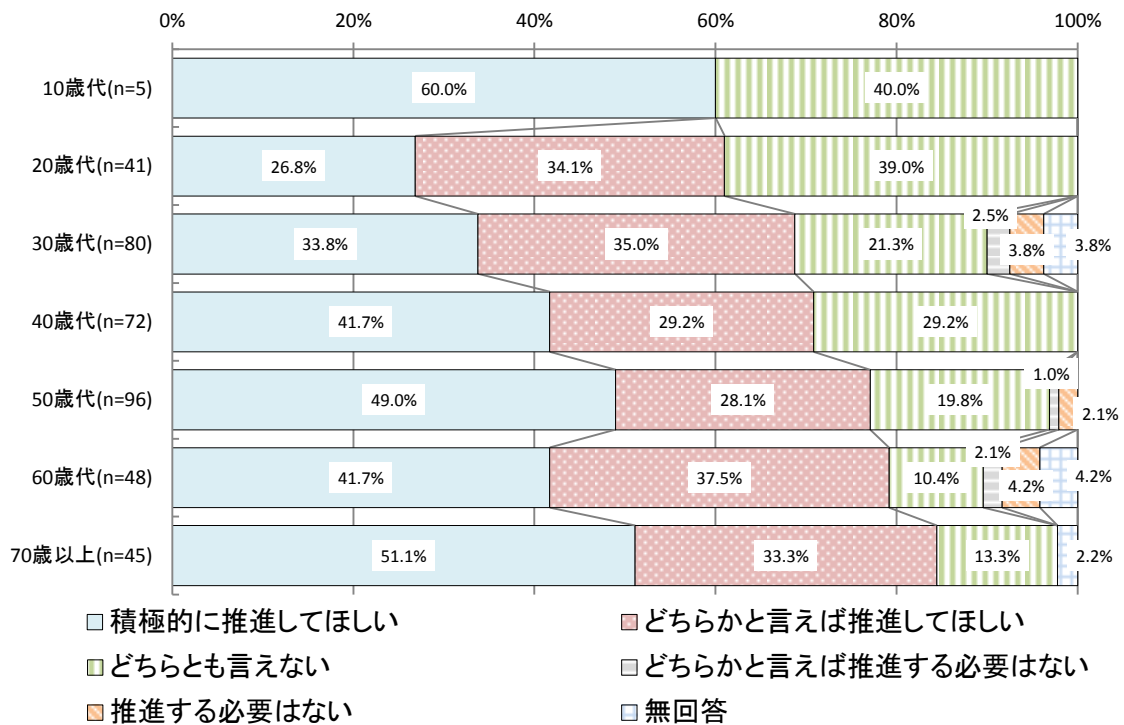
2. 企業による社会貢献活動

企業による社会貢献活動については、「積極的に推進してほしい」が41.6%と最も多く、次いで「どちらかと言えば推進してほしい」が31.9%、「どちらともいえない」が22.1%となっている。

これを年齢別にみると、全ての年齢で『推進してほしい』（「積極的に推進してほしい」+「どちらかと言えば推進してほしい」）が6割以上となっており、年齢とともに『推進してほしい』の割合は上昇傾向にある。



○年齢別にみた企業による社会貢献活動



VI. 市民活動と行政との関わり

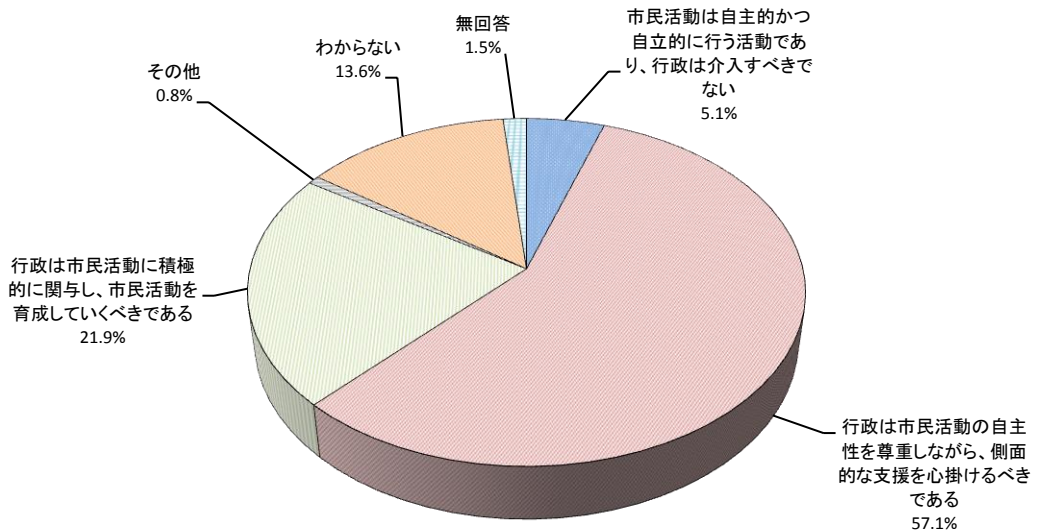
1. 市民活動と行政のあり方について

市民活動と行政のあり方については、「行政は市民活動の自主性を尊重しながら、側面的な支援を心掛けるべきである」が57.1%と最も多く、次いで「行政は市民活動に積極的に関与し、市民活動を育成していくべきである」が21.9%、「わからない」が13.6%となっている。

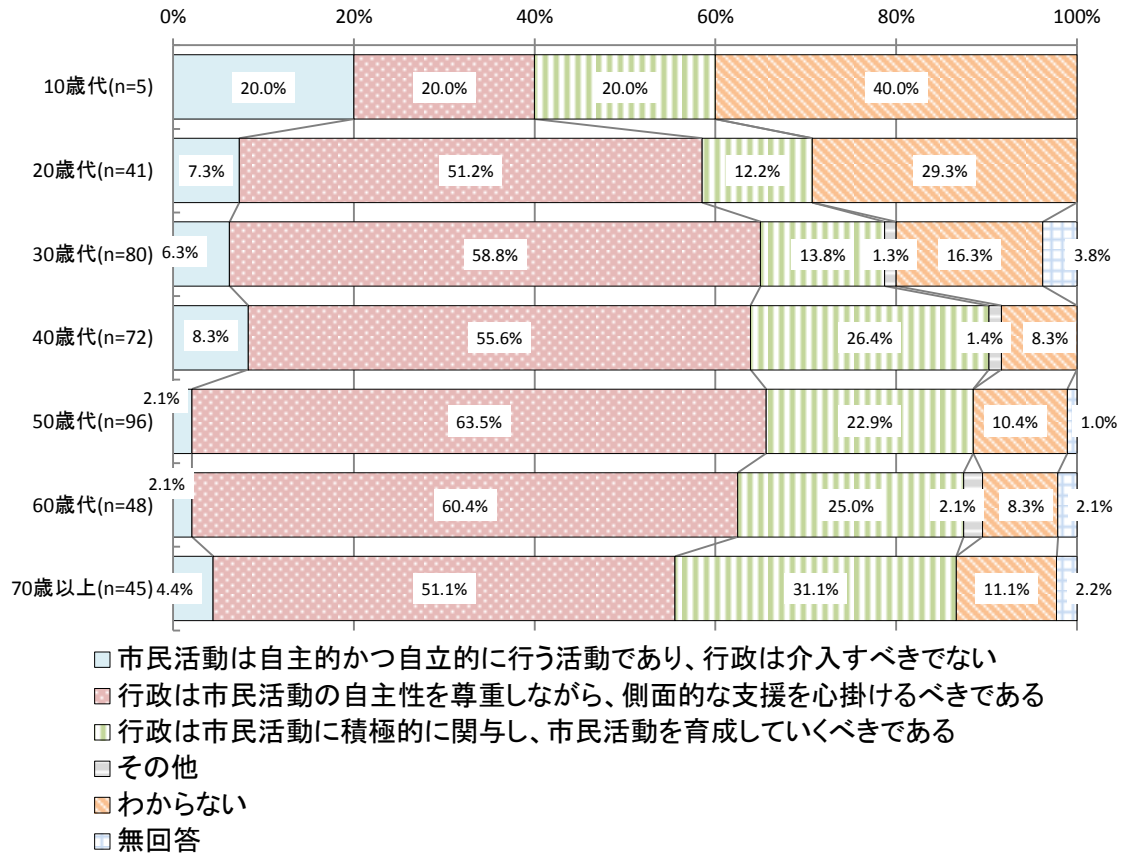
これを年齢別にみると、10歳代以外の年齢で「行政は市民活動の自主性を尊重しながら、側面的な支援を心掛けるべきである」が約6割となっている。

また、過去3回の調査結果と比較すると、「行政は市民活動の自主性を尊重しながら、側面的な支援を心掛けるべきである」が、各年約5割となっている。

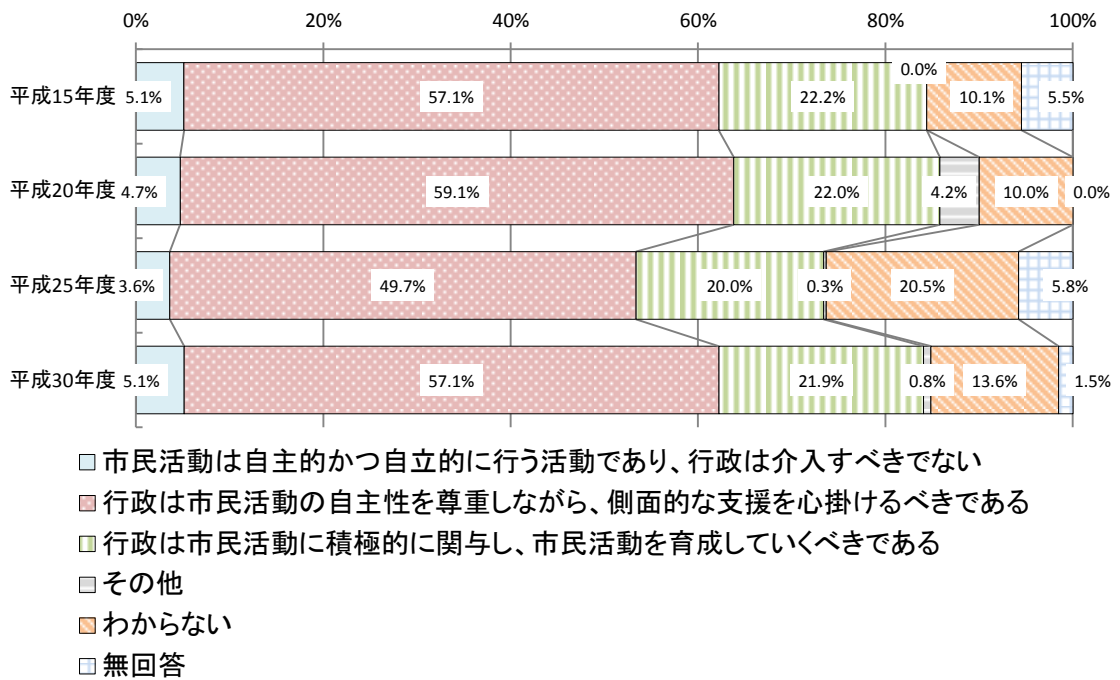
[市民活動と行政のあり方について (n=389)]



○年齢別にみた市民活動と行政のあり方について



○年度別にみた市民活動と行政のあり方について



Ⅶ. 自由意見（主なもの）

1. 市民活動に対する考え方について

- 学生時、特に小中学校でのボランティア活動でも十分に地域に根ざした長期的な結果が得られるのではないかと思います。子どもがいれば別ですが、中々休日に市民活動に参加しようとはならないですし、時間も取れない方が多いのではと思います。
- 協働を掲げるのであれば、行政としても職員（公務員）が個人としても積極的に市民活動に参加し、気運を盛り上げていくことが大切だと思います。いくつかの活動に参加していますが、職員は仕事として、市民はボランティアという意識のズレを多々感じた事があります。
- 市民活動への金銭的な助成も考えるべきだと思います。
- 市民活動は、身の回りのことからひろげていけば良いと考えます。城山登山会に参加し、城山展望台周辺の清掃を行なっています。（竹ボウキは市の公園課より3～4ヶ月に1回提供してもらっています。）城山登山途中で道路に捨てられたゴミの回収を行う等、その活動の広がりを見せています。この様な活動が周辺へ波及すればと思います。
- 市民活動団体が協力し合って活動できればいいと思います。
- 市民活動に気軽に参加できるような環境を作ることが大事だと思います。
- 市民活動の意義について、もっとPRしてほしいです。最近若い人たちは町内会の活動を嫌がり、なかなか加入してくれません。なぜ町内会の活動があるのか、どんな意義があるのかといったことを理解してもらうために、行政と市民で努力していきたいです。
- 様々な活動があり、参加したい人、参加してほしい方がいるかと思います。情報があっても、知る機会がなかったり、知っていても日時があわず、参加したいけどできない人が多いと思います。参加しやすい機会があると多くの方が参加しやすくなると思います。
- 市民活動は詳しくなく、よくわからないのが現状です。仕事に追われて余裕が無いですが、市民活動だけではなく地域や社会とのつながりを大切にしていきたいです。
- 共働きで子育て中だと、休日にも学校行事や習い事に追われ、市民活動は二の次になってしまいます。子育てピーク世代より定年退職後の人などをうまく活用して下さい。
- 後期高齢者をふくめ、特に男性の集まる機会を考えてほしいです。
- 企業を巻き込んで行えば活性化すると思います。
- 企業・団体の社会貢献活動に関するインセンティブを制度化して欲しいです。（減税、社会への周知、表彰等）
- 活動が個人の負担になるような市民活動は行うべきではないと思います。

- 学校教育の過程で早いうちにすべての子供達が市民活動とは何かを知ることが大切だと思います。
- 自然災害で多くの方が困っています。現地でのボランティアなど、何か役に立てないかと考えるものの何もできずにいます。交通費や宿泊場所など、行政と協力し、現地での活動が可能になればと思います。
- 会社ではボランティアで清掃活動を行っています。妻は町内会の役や行事、リサイクルなどに必ず参加し、子どもたちも学校等のリサイクルなどに参加しています。各自が市民活動の大切さを学び、出来ることをやるのがいちばん大切だと思います。

2. 市民活動への行政の関わり方について

- 市職員の方でも自治会に入っていない方がいます。職員に対して加入推進をしているとのことですが、こういうことがあると頑張っている者にとってはがっかりです。
- 行政は、側面的サポートをしつつ、市民活動が積極的に行われるように、民間・団体との融合が必要であると思います。
- 鹿児島市を更に良くしていくには、役所、住民、企業等の理解と協力が必須です。
- 市民活動を活性化するためにはまず支所の職員の頑張りです。市に合併する前の支所なら活性化でもなんでも参加してきたと思います。職員の方も頑張ってください。
- 家族は活動しており、私も参加はしたいのですが、職場の理解が乏しいため参加が難しく、興味を持っても仕方がないと感じてしまいます。ボランティア休暇の推進を義務付けるなど、行政からの働きかけもあると、活性化につながるのではないのでしょうか。市民活動へ参加することが普通であると思える環境になると良いと思います。

3. 情報提供について

- ボランティアなどの情報がほぼ入ってきていないので SNS を使って情報を発信したらいいと思います。(ツイッターやインスタなど) 今、学生なのですが学校にも進んでボランティアなどのチラシを配るのもいいと思います。
- ボランティアに参加してみたいのですが、どのような活動を行っているのかわかりません。公民館の掲示板や、テレビ CM で情報発信していただけるとありがたいです。
- 地域の公民館等で、色々な講習会を開いて欲しいです。私の地域は高齢者が多いので、若い方との交流の場となる幅広い年齢を対象とした講習会があれば良いのではと思います。

4. 活動への参加意向

- 色々な形で PR していただいて、自分で参加できそうな活動を探していきたいと思います。私は数年で退職になるので、時間はできると思います。月1~2回くらいから、地域と自分のために行きたいと思います。
- 自分自身ができることで協力させていただいております。円ブリオ基金、国連支援募金箱等々、また NPO に参加している方々への協力はさせていただいております。こういった「裏方」も必要ではないかと思います。これからもそうしたいです。
- 今まで格別の活動や協力する機会がなく、又積極的な興味も持たずに過ごして来ました。今後はこの調査をきっかけに広報等にも目を通し、具体的な市民活動を知るように努めたいと思います。

5. 地域での市民活動について

- 町内活動へ参加することはすごく尊い行為だと思いますが、取り組む人が限られてしまうと（人材不足）その人にもものすごく負担が重くのしかかってしまいます。その様にならない方策があればとずっと思っています。
- 町内会の加入率が著しく低下するなど、市民活動そのものが見直される時期に来ていると思います。活動してもメリットがない、加入しても何も変わらないといった意識をどうしたら改善できるのか、市、県にはぜひ検討してもらいたいと願います。「協働教育」を進めて欲しいです。
- 町内会の活動において、協力しないのに恩恵にあずかっている人に対して、町内会の重要性や会費がどういったものに使用されているのか、行政にもう少し公平公正な立場で広報してもらいたいです。高齢な方と若い方の意見の相違も大きく、協力しづらい環境であるのも事実ではあります。
- 町内会の脱会者が増えています。町内会の意義について、周知活動を行ってほしいです。
- 市民活動をして下さっている方々がいらっしゃるということは本当に有り難いと思います。身近では町内会の役員の方々には感謝しています。市民が安全に過ごせる鹿児島市であってほしいと思います。
- 市民活動が盛んな地域に住んでいると安心感があります。子どもが小学生になり、あいご会での関わりが増えました。行政の積極的な関わりなどの支援がなければ、今後若い世代に担い手が移ると活動が衰退していくのではと思います。
- 町内会加入を強制しないで下さい。大事な事もあるとは思いますが、大勢で何かするのが得意な人ばかりではありません。日曜日、祝日に休めない人もいます。生活に余裕があり、自由に仕事も休める方におまかせしたいです。
- やはり町内会に入会し地域活動に積極的に参加することが市民活動の活性化につながると思う。そのためには、一人ひとりの意識の問題で、気軽に参加できる環境づくりも大切では。

市民活動に関するアンケートへのご協力について（お願い）

市民の皆様へ

皆様方におかれましては、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

また、常日頃より市政に対して、ご理解とご協力をいただいておりますことにお礼を申し上げます。

さて、本市では、町内会活動やボランティア活動、NPOでの活動などを促進することにより、市民と市との協働によるまちづくりを進めております。

このたび、今後の施策等の参考とするため、市民の皆様に市民活動への参加状況等についてお聞きするアンケート調査を実施いたします。

この調査は、今後の市民活動への支援の方向性を決めていく上でとても大切となることから、多くの市民の皆様の声を反映させていきたいと考えております。つきましては、お忙しい中誠に恐縮ですが、本調査の趣旨をご理解いただき、ご協力いただきますようよろしくお願い申し上げます。

※ご回答いただいた調査票は、平成30年7月10日（火曜日）までに、同封の返信用封筒でポストに投函していただきますよう、よろしくお願いいたします。

◆◆ご記入に当たって◆◆

1. ご回答は、選択肢の番号に○印を付けてください。また、「その他」を選択する場合は、「その他」の番号に○印を付け、（ ）内に具体的な内容をご記入ください。
2. ご回答いただく上でご不明な点がありましたら、下記までご連絡くださいますようお願いいたします。
3. この調査票は、本市にお住いの18歳以上の方の中から1,000人の方を無作為に選び、お送りしております。
4. ご回答いただいた内容は、本調査業務のみに利用し、個々の調査票を公表するなど、上記の目的以外に使用することは一切ございません。

◆◆お問い合わせ先◆◆

鹿児島市役所 市民協働課

電 話 099-216-1204

F A X 099-216-1207

E-mail shi-kyo@city.kagoshima.lg.jp



まず、あなた（回答者）ご自身のことについてお伺いします。

下記の項目についてご記入、またはそれぞれ該当する番号を1つ選んで○印をお付けください。

※ご記入いただいた個人情報を、今回の調査分析以外の目的に使用することは一切ありません。

居住地域 ※○は一つ	1. 中央地域 5. 吉田地域 9. 郡山地域	2. 谷山地域 6. 桜島地域	3. 伊敷地域 7. 喜入地域	4. 吉野地域 8. 松元地域
性別	1. 男性	2. 女性		
年齢	1. 10歳代 5. 50歳代	2. 20歳代 6. 60歳代	3. 30歳代 7. 70歳以上	4. 40歳代
職業	1. 自営・家族従業者 2. 会社員・団体職員 5. 学生 8. その他（具体的に	3. 会社・団体役員 6. 専業主婦（夫）	4. 公務員 7. 無職)

I 市民活動に関する意識について

ここでいう「市民活動」とは、具体的にはボランティア活動、町内会活動、NPO[※]等の活動です。「自分たちで自発的に行う活動の中で、営利を目的としない公益的な活動」とします。

※NPOとは、Non-Profit Organization（非営利組織）の略で、営利を目的としない公益的な市民活動などを行う民間の組織、団体を言います。

問1 あなたは、市民活動にどの程度関心がありますか。

次の中から該当する番号を1つ選んで○印をお付けください。

1. 非常に関心がある
2. 少し関心がある
3. あまり関心がない
4. 全く関心がない

問2 あなたは、市民活動がどの程度社会に役立っていると思いますか。
次の中から該当する番号を **1つ** 選んで○印をお付けください。

1. 大いに役立っている
2. ある程度役立っている
3. あまり役立っていない
4. 全く役立っていない
5. わからない

II 市民活動の経験について

問3 あなたは、これまでに市民活動を経験したことがありますか。
次の中から該当する番号を **1つ** 選んで○印をお付けください。

1. 現在行っている → **問4にお進みください**
2. 現在は行っていないが、以前行ったことがある → **問4にお進みください**
3. これまで行ったことがない → **問8にお進みください**

【問4～問7については、問3で「1」または「2」のいずれかを選んだ方（市民活動を経験したことがある方）にお伺いします】

問4 あなたは、市民活動をどのくらいの頻度で行っていますか（行っていましたか）。
次の中から該当する番号を **1つ** 選んで○印をお付けください。

1. ほとんど毎日
2. 週に数日
3. 月に数日
4. 年に数日
5. 不定期

問5 あなたは、どのような団体の市民活動に参加されましたか。
次の中から該当する番号を **いくつでも** 選んで○印をお付けください。

1. 町内会や自治会、地域コミュニティ協議会※
2. ボランティア団体
3. NPO 法人
4. その他（）
5. 分からない、覚えていない

※地域コミュニティ協議会とは、町内会をはじめとした既存の地域コミュニティ組織に加え、NPOや事業所、医療機関、福祉施設など、小学校区内で活動している各種団体が、地域の課題解決や資源活用など地域主体のまちづくりに連携・協力して取り組むための新しい仕組みのことです。

問6 あなたが市民活動を行うようになったきっかけは何ですか。
次の中から該当する番号を**1つ**選んで○印をお付けください。

1. 町内会や自治会、地域コミュニティ協議会の活動などに誘われて
2. 学校の課外活動として
3. 企業などの社会貢献活動として
4. 活動団体や施設などの呼びかけに応じて
5. 新聞やTV、広報紙などを読んで
6. 友人・家族などに誘われて
7. 定年退職をきっかけに
8. 自分の自発的な意思で
9. その他 ()

問7 あなたが市民活動を行って良かったと感じられたことは何ですか。
次の中から該当する番号を**いくつでも**選んで○印をお付けください。

1. 多くの人たちと交流ができ、友人を得ることができた
2. 活動の大変さがわかり、貴重な体験ができた
3. 生きがい・やりがいなど充実感を得ることができた
4. 活動そのものが楽しかった
5. 人に感謝されて喜びを感じることができた
6. 知識や技術を習得することができた
7. 活動の重要性が認識できた
8. その他 ()
9. 特にない

問7回答後、問12にお進みください

問11 あなたは、どのような団体の市民活動に参加してみたいですか。
次の中から該当する番号をいくつでも選んで○印をお付けください。

1. 町内会や自治会、地域コミュニティ協議会
2. ボランティア団体
3. NPO法人
4. その他 ()
5. わからない

【ここからは、全ての方にお伺いします】

問12 あなたは、どのような市民活動に参加したいと思いませんか。
次の中から該当する番号をいくつでも選んで○印をお付けください。

1. 保健、医療又は福祉の増進を図る活動
2. 社会教育の推進を図る活動
3. まちづくりの推進を図る活動
4. 観光の振興を図る活動
5. 農山漁村又は中山間地域の振興を図る活動
6. 学術、文化、芸術又はスポーツの振興を図る活動
7. 環境の保全を図る活動
8. 災害救援活動
9. 地域安全活動
10. 人権の擁護又は平和の推進を図る活動
11. 国際協力の活動
12. 男女共同参画社会の形成の促進を図る活動
13. 子どもの健全育成を図る活動
14. 情報化社会の発展を図る活動
15. 科学技術の振興を図る活動
16. 経済活動の活性化を図る活動
17. 職業能力の開発又は雇用機会の拡充を支援する活動
18. 消費者の保護を図る活動
19. その他 ()
20. 特にない

問16 市民活動の活性化に関するご意見・ご要望などございましたらご自由にお書きください。

質問は以上です。最後までご協力いただき、誠にありがとうございました。

同封の返信用封筒（切手不要）に調査票を入れて**7月10日（火）までに**ポストに投函していただきますよう、お願いいたします。



